

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

国立公文書館	
分類	
	政 赤
配架番号	3 A
	14
	20-5

#14201

極秘

1 OCT 17
COPY 1987

浙贛作戰間現地綜合調查報告書

第四編 政治文化思想

昭和十七年十月十五
日 登集團司令部

国立公文書館	
分類	
配架番号	20-5

第四編 政治文化思想

第一節 江西省廣豐縣

一、行政機關ノ現況

(一) 新縣制紀要

(二) 省臨時參議會

(三) 財政

(四) 結語

二、社會施設特ニ教育施設ノ狀況

(一) 緒言

(二) 縣教育行政組織

(三) 縣義務教育經費

(四) 國民教育五ヶ年計畫

(五) 實施概況

(六) 教育視導網ノ確立

(七) 社會教育

(八) 教師ノ養成並ニ待遇改善

(九) 結語

三、衛生防疫施設ノ概要

(一) 傳染病流行狀況

(二) 衛生施設並ニ防疫狀況

四、抗戰力ヲ主体トスル軍政黨ノ動向

(一) 緒言

(二) 工作概要

(三) 民心ノ動向

第二節 浙江省衢縣

一、行政機關

(一) 民政

(二) 警察

- 三 財政
- 三 教育施設
 - (一) 教育行政
 - (二) 學校教育
 - (三) 社會教育
 - (四) 教育經費
- 三 衛生施設
 - (一) 衛生行政
 - (二) 醫藥施設及人員
 - (三) 疫情概況
 - (四) ベスト流行トソノ防治概況
- 四 抗戰力ヲ主体トスル軍政黨ノ勳向
 - (一) 國民兵團
 - (二) 兵役

- (三) 地方行政幹部訓練
 - (四) 三民主義青年團
 - (四) 動員準備
- 第三節 松陽縣
- 一 行政機關
 - (一) 概況
 - (二) 民政
 - 二 教育
 - (一) 概況
 - (二) 文盲肅清
 - (三) 中小學教育ノ改進
 - 三 衛生防疫醫療
 - (一) 衛生行政
 - (二) 醫藥施設及人員

三 疫狀概況

四 抗戦力ヲ主体トセル軍政黨ノ動向

(一) 國民

(二) 軍關係

第四節 廣信縣

一 行政機關ノ現況

二 社會施設特ニ教育施設ノ概要

三 衛生施設、防疫狀況

(一) 傳染病流行狀況

(二) 衛生施設並ニ防疫狀況

四 抗戦力ヲ主体トスル各層ノ動向

第五節 玉山縣

一 行政機關ノ現況

二 社會施設特ニ教育施設ノ概要

三 衛生施設防疫狀況

(一) 傳染病流行狀況

(二) 衛生施設、防疫狀況

四 抗戦力ヲ主体トスル各層ノ動向

第六節 金華縣

一 行政機關ノ現況

二 教育施設

三 衛生施設防疫狀況

(一) 傳染病流行狀況

(二) 衛生施設並ニ防疫狀況

四 抗戦力ヲ主体トスル各層ノ動向

第七節 蘭谿縣

一 行政機關ノ現況

(一) 精神建設ノ方向

- (一) 地方自治ノ実績
- (二) 警察組織ノ充實
- (三) 三十一年度實施豫定財政々策要項
- (四) 社會施設特ニ教育施設ノ概況
- 三 衛生施設防疫狀況
- (一) 傳染病流行狀況
- (二) 衛生施設並ニ防疫狀況
- 四 抗戦力ヲ主体トセル各層ノ動向
- 第八節 龍游縣 (衛生關係)
- 第九節 義烏縣 (衛生關係)
- 第十節 諸暨縣 (衛生關係)

以上

第一節 江西省廣豐縣

一、行政機關ノ現況

(一) 新縣制紀要

1 新縣制ノ實施

重慶政府ハ蒋介石ノ所謂「二期抗戰、政治重於軍事」ノ意見ニ基キ抗戰建國方針完遂ノ必要上竝ニ政治的環境ニ應センカ爲縣以下ノ行政機構ノ改造ヲ標榜シテ民國二十八年新體制ニ關スル方案ヲ公布シ同二十九年一月一日ヨリ新縣制ヲ實施セリ。本縣ニ於テモ右新制ニ基ク縣政ノ運用ハ相當活潑ニ行ハレシモノ、即チ全縣ヲ五區ニ分テ更ニ二十二鄉、四百六十五保、四千八百七十七甲ニ細分シテ各鄉鎮ノ輔導階級ニ當リ以テ分工合作ニ從事セルカ各地共此ノ保甲制度ハ概シテ確立シテアリタリ。

2 新縣制綱要

新縣政綱要ハ地方組織ノ強化、地方自治事業ノ促進ニヨリ革命建設ノ基礎ヲ奠定スルヲ目的トスト稱シアリ。所謂新縣制ノ中心工作ハ

「管教養衛」ノ四字ヲ以テ表現サレ、「教」ハ訓政即チ四權行使ニ對スル人民ノ訓練、「養」ハ民政即チ人民經濟生活ノ改善、「衛」ハ自衛即チ民族ノ獨立自由ノ保衛ニシテ畢竟「教養衛」ノ三者ハ實際上三民主義ノ具體的實施ニ外ナラス。「管」ハ則チ此ノ政策實施ノ最モ有效ナル手段方法ヲ講求スルノ意ニシテ以上四字ヲ以テ孫文ノ「保民」、「理民」、「教養兼施」ノ理想ニ合ストナスモノナリ

○新縣制ニヨル縣各級組織系統表竝ニ述略

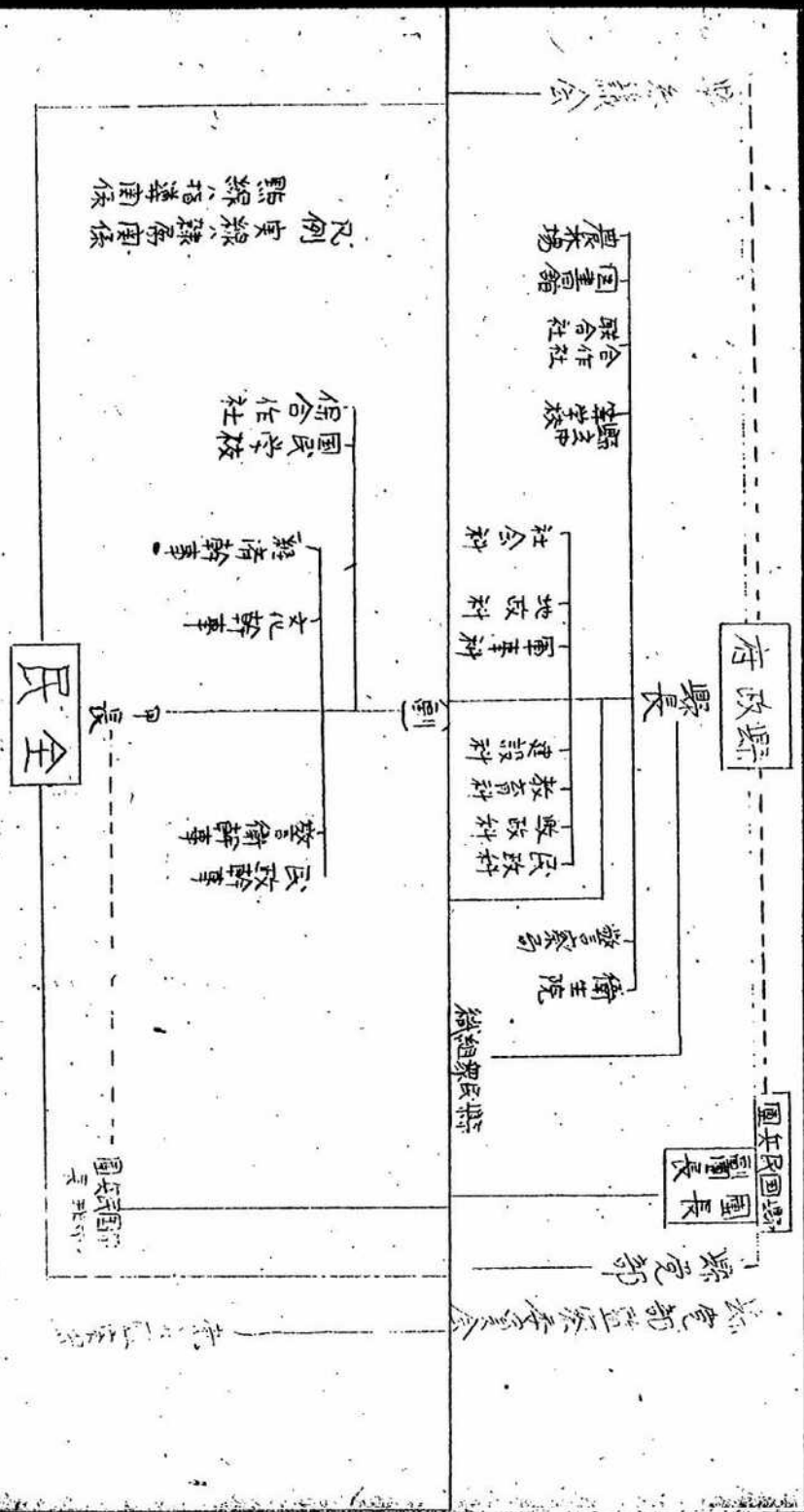
新縣制ニヨル縣各級組織ヲ簡單ニ記述スレハ次ノ如シ。

- (1) 縣ヲ地方自治ノ單位トス
- (2) 縣ノ面積過大ナルモノ或ハ特殊ノ狀況アルモノハ更ニ區ニ分チ署ヲ設ク、此ノ規定ハ彈力性ヲ有シ適宜地域ノ狀勢ニ應ジ必要ノ際之ヲ設立ス、區公署ハ縣政府代表機關ニシテ各鄉(鎮)ヲ督導シテ各種行政及自治事務ヲ處理スルヲ以テ任務トス
- (3) 縣政府ニ民政、財政、教育、建設、軍事、地政、社會ノ各科

ヲ設ク

- (4) 縣政府ニ縣政會議ヲ設ク
- (5) 民意機關トシテ保民大會、鄉(鎮)民代表會及縣參議會アリ、縣參議會ニハ狀況ニヨリ適宜職業團體ノ代表ヲ加フルコトヲ得
- (6) 鄉(鎮)ハ縣以下ノ基本單位ニシテ鄉(鎮)長、副鄉(鎮)長ハ何レモ民選ニヨル、保ハ鄉(鎮)ノ細胞組織ニシテ甲ハ保ノ細胞組織ナリ
- (7) 人口稠密ナル地方ニシテ一村、一街カ自然單位トナリ分離不可能ナル場合ハ二保或ハ三保ヲ聯合シテ國民學校、合作社及倉庫等ノ機關ヲ設立シ、保長一名ヲ推舉シテ首席保長トシテ事務ヲ統轄セシムルコトヲ得、但シ壯丁隊ハ各保毎ニ編除訓練ヲ施スコトヲ要ス
- (8) 保長、副保長及甲長ハ民選ニヨル

(9) 郷（鎮）ノ劃分ハ十保ヲ以テ原則トシ六甲ヨリ少ク十五甲ヨリ多キコト能ハス、甲ノ編制ハ十戸ヲ以テ原則トシ六戸ヨリ少ク十五戸ヨリ多キコト能ハス
 新縣制ニヨル縣政府組織系統表ヲ示セバ次ノ如シ。



(附註) (イ) 縣政府ニ秘書、科長、指導員、督學、警佐、科員、技士、技佐、事務員、巡官等ヲ置キ其ノ定員、官等、俸給及編制ハ縣ノ等次及實際ノ狀況ニ應シ内政部ニ於テ決定スルモノトシ

(ロ) 縣參事、鄉鎮並ニ職業團體代表ヲ以テ組織サレ縣政ノ振興ヲ圖ルト共ニ別ニ縣黨部監察委員會カ設置サレ全縣行政ノ監察ニ當レリ。

(ハ) 保甲制度ハ約十數年前ヨリ實施サレ、其後年二回ノ反覆調査ニヨリ制度ノ完備ヲ圖リツ、アリシガ、事變後コノ制度ヲ利用シ一種ノ情報機關ヲ組織シ其ノ活動モ相當活潑ナリシ模様ナリ。

(三) 省臨時參議會

1 趣旨

抗戰期間中廣ク民意ニ基キ省政ノ振興改革ヲ促進ス。

2 參議員選出法

- (1) 該省屬縣市住民ヨリ十分ノ六、各該省重要文化團體或ハ經濟團體ニ於ケル服務者中ヨリ十分ノ四
- (2) 前者選出ノ場合ハ各縣市政府ヨリ省政府ニ對シ有資格候補者二名ヲ推薦
後者選出ノ場合ハ各該省政府及黨部聯席會議ニ於テ定員ノ二倍ノ候補者ヲ推薦
- (3) 前二項候補者ノ名簿完成後省政府ヨリ之ヲ行政院ニ送付シ國務院長官會議ニ於テ之ヲ決定ス

3 機能

- (1) 抗戰期間中省政府重要施政方針ハ實施前省臨時參議會決議ヲ經ルヲ要ス
- (2) 其ノ休會期中特ニ緊急ナル事態發生シタル場合ハ行政院ノ許可ヲ得ルコトヲ要シ且次期集會時之ヲ省臨時參議會

ニ報告スヘシ

4 權限

- (1) 省政振興改革ニ關シ省政府ニ建議案ヲ提出スルコトヲ得
- (2) 省政府施政報告聽取ノ權ヲ有ス
- (3) 開會時ニ於テ省政府ニ質問ヲ提出スル權ヲ有ス

5 任期

參議員ノ任期ハ一年トシ行政院ニ於テ必要ト認メタル時ハ之ヲ延長スルコトヲ得

6 會期

參議會ハ六ヶ月ニ一回開會、會期ハ二週間ニシテ、省政府ニ於テ必要ト認メタル時ハ會期ヲ延長シ、或ハ臨時會ヲ召集スルコトヲ得

7 決議

會議ニ際シテハ參議員總員半數以上ノ出席ヲ俟ツテ開會シ

出席者半數以上ノ贊同ヲ以テ決議スルコトヲ得

8 駐會委員會

省臨時參議會休會期間ハ省臨時參議會駐會委員會ヲ設置シ
參議員中ヨリ五人乃至九人ヲ互選シテ組織ス、其任務ハ省
政府ノ各種報告及省臨時參議會決議案ノ實施經過ヲ稟取ス
ルモノトス

(三) 財政 (改革事項)

- 1 糧食管理強化ノ爲中央糧食管理局ヲ糧政部ニ擴張シ各省糧
食管理機關ヲ糧政局ニ改組スルト共ニ田賦ハ凡テ現物ヲ以
テ徵收スルコトニ改ム
- 2 財政收支系統ヲ國家財政及縣自治ノ二級トシ、省行政豫算
モ國家豫算中ニ併合、稅收機關ハ全部中央財政部ヨリ直接
ニ管理スルコトニ改ム

(四) 結語

如上ノ新縣制實施以來既ニ第三年ヲ迎ヘタル現在ニ於テモ一般ニ此
ノ趣旨尙徹底セス加フルニ行政方面ノ人材缺乏シ、爲ニ其ノ積極的
努力ニモ拘ラス全面的革新ノ實ハ擧ゲ得サリシモノノ如シ

三、社會施設特ニ教育施設ノ狀況

(一) 緒言

一般ニ教育程度極メテ低ク、從前ハ支那ノ他ノ地方ト同様民間ノ就
學率平均一〇%弱ニ過キサリシカ、近時新狀態ニ即應シテ教育ノ普
及ノ必要カ叫バル、ニ至レリ。即チ重慶政府當局ハ新縣制ヲ實施ス
ルニ當リ、先ツ教學ヲ本トシテ革命建國ノ諸工作ヲ合一セシメジコ
トヲ原則トシ、國民教育五ヶ年計畫ニ基ク劃期的革新ヲ企圖シタル
カ、本縣モ此ノ趣旨ニ基キ重慶ノ指令ニヨリ行政專員、縣長以下各
主務者ハ夫々重慶中央訓練團黨政訓練班ニ參加シテ短期訓練ヲ受ケ

郷鎮中心學校及保國民學校ノ増設、教師ノ養成、待遇ノ改善等ニ積極的努力ヲ拂ヒタリ

(二) 縣教育行政組織

縣教育行政人員ニ關スル重要政府ノ規定ハ資格、閱歴ヲ偏重セル傾向アリ、教育科長、科員、縣督學、及指導員ノ任用ニ當ツテハ嚴格ナル資格査定ヲ經テ縣ヨリ教育廳ニ申請シ、廳ヨリ省政府ヲ經テ任命スルモ、任用以後ハ課長ノ意志ニヨツテ之カ進退ヲ決スルコト能ハスト規定シアリ。從ツテ人材拂底ノ狀勢下ニ於テ今尙所定ノ人員ヲ整備シ得サル縣極メテ多シ。

(三) 縣義務教育經費

經費ハ概ネ次ノ標準ニ基イテ調達サレタリ

四分ノ一 中央及省金庫ヨリ補助

四分ノ二 公學資産及寄附金ニヨル各保ノ自辦

四分ノ一 全縣人民ノ富力ニ應シテ分擔セシム

民國二十九年上半期ニ於テ廣豐縣教育ニ對シ中央ヨリ支出サレタル補助金ハ五、六八四元ナリ。

郷保ニ於テモ教育基金ニ關シテハ公有財産、寺廟財産ノ利用、寄附金ノ獎勵等其他種々ノ方法ヲ採ルト此ノ教育計畫ニ對スル充分ナル經費ノ調辦ハ相當困難ナル問題ナリ。

(四) 國民教育五ヶ年計畫

國民教育ハ之ヲ義務教育及失學民衆補習教育ノ二部分ニ分チ、何レモ保國民學校及郷鎮中心學校内ニ於テ同時ニ實施シ、先ツ義務教育部門ヨリ充實セシム。全國ノ滿六才乃至十二才ノ學齡兒童ハ六年間ノ小學教育ヲ受ケ得ル能力アル者以外ハ國民教育實施綱領ニ基キ四年或ハ三年、又ハ一年間ノ義務教育ヲ受クハシト規定シアリ。

全國ノ滿十五才乃至四十五才ノ失學民衆ハ夫々初級或ハ高級民衆補習教育ヲ受クヘキモノトス。先ツ十五才乃至三十五才ノ男女ヨリ實施シ、漸次年長者ニ及スモノトシ、滿十二才乃至十五才ノ失學兒童

ハ適宜相當ノ義務教育或ハ失學民衆補習教育ヲ施スコトヲ要ス。
 實施ニ當ツテハ民族意識、國家觀念ノ昂揚、國民道德ノ培養、身心
 ノ鍛練ヲ重視シ、實際上ノ需要ニ即シテ自衛自治能力ヲ養成シ、且
 ツ生活ニ必須ナル知識技能ヲ授クルヲ以テ方針トス。其ノ分期計畫
 次ノ如シ。

(1) 第一期 (民國二九、八一三一、七一)

中心學校、國民學校ノ設立期

目標 入學兒童 學齡兒童總數

入學民衆 失學民衆總數

30	85
100	100

以上 以上

(2) 第二期 (民國三一、八一三三、七一)

國民學校ノ増設或ハ班級ノ増加

目標 入學兒童 學齡兒童總數

入學民衆 失學民衆總數

50	85
100	100

以上 以上

(3) 第三期 (民國三三、八一三四、七一)

保國民學校每保一校ノ目的達成

目標 入學兒童 學令兒童總數

入學民衆 失學民衆總數

60	90
100	100

以上 以上

(五) 實施概況

1 抗戰意識ノ育成

(1) 學校教育教材ニヨル強調

(2) 縣國民精神總動員協會設立

(3) 民衆組織訓練及各種戰時任務隊設立

尙廣豐縣内ニハ中學三アリ、其ノ内中岑ノ復南中學ハ民國童子
 軍第一八八一團ナル名稱ヲ以テ學生ヲ編成ノ主体トシ、時々訓
 練ヲ實施シアリ。又杉溪ニハ日本人杉江某ノ創設セリトイフ杉
 江中學アリ、抗日思想ノ鼓吹ニ從事セル形跡アリ、事實ノ有無

ハ別トスルモ彼等農民大衆ガ此ヲ意識的ニ事實トシテ肯定スルニ於テハ一ノ問題トシテ考慮ノ要アリ。

2 文盲根絶運動

國民教育民教部（成人班、婦女班）、專設或ハ附設民衆學校及暑期民衆學校（中學生教導担当）ノ三組織ニヨリ劃期的推進ヲ豫定シアリシモ、經費、教師資格、並ニ學生募集等ノ困難ノ爲何等實績ノ見ルヘキモノナシ。

3 生産教育及百業教育ノ實施

廣豐縣ニハ菸業（煙草）及茶業工人補習班設置サル

4 体育ノ實施

5 救濟工作

當廣豐縣ハ省第六行政區ニシテ次ノ三施設アリ

(1) 廣豐兒童教養所

(2) 養老、育嬰所（縣城内）

年經費 約一、三二〇元程度

(3) 難民收容所（縣城南門外王家祠）

(六) 教育視導網ノ確立

教育實施ノ状態ヲ督察シ適時之ニ指導ヲ加フル爲ニ左ノ視導網ヲ擴充シタリ

1 省督學 縣地方教育及公私立中小學視察

2 義務視導員 縣義務教育視導

3 社教督導員 縣社會教育及各校兼辦社教監督指導

4 特教視導員 各縣中山民衆學校工作視察指導

(七) 社會教育

1 各種工作實施原則

- (1) 抗戰ノ要求ニ適合スルヲ要ス
- (2) 地方ノ環境ヲ審察スルヲ要ス
- (3) 民衆ノ需要ニ適應スルヲ要ス

2 指定工作要項

- (4) 經濟的條件ヲ具備スルヲ要ス
- (5) 社會文化ヲ促進スルヲ要ス
- (6) 國家建設ニ協助スルヲ要ス

(1) 民衆教育館

- イ 失學民衆補導、文盲絶滅運動
- ロ 通俗講演及抗戰宣傳
- ハ 生計教育竝ニ小規模生産工作指導

(2) 圖書館

- イ 各種抗戰圖書蒐集購置
- ロ 民衆讀書會組織
- ハ 圖書ノ閱覽
- ニ 書籍、新聞ノ流通ニヨル社會文化ノ促進

(3) 縣体育场

- イ 器材設備、運動場設定
- ロ 定期運動會、競技會舉行
- ハ 登山、渡河會等ノ開催
- ニ 民衆ニ對スル積極的指導

(4) 學校兼任社會教育

- イ 民衆學校、識字班附設
- ロ 通俗講演、抗戰宣傳
- ハ 壁畫作成

ニ 國民月會輔導

ホ 問事處、代筆處設立

(八) 教師ノ養成竝ニ待遇改善

國民教育五ヶ年計畫完成時ニ於ケル所要教師ヲ充實スヘク目下教師ノ養成ヲ急キツツアルモ、待遇ノ不良ハ必然的ニ教師ノ質的低下ヲ示シ、現在全縣ノ教師中ソノ殆ト半ハ小學卒業者ニシテ師範卒業ノ

資格アル者ハ寥々トシテ幾何モナキ状態ナリ。教育廳ノ所謂學米制
度モ漸次確立シツツアリト雖、尙生計ノ維持極メテ困難ナルニヨリ
終ニ敎師ノ職ヲ去リテ俸夫ニ轉業スル者スラアルニ至ル。茲ニ於テ待
遇改善ノ必要叫バル、ニ至リ、廣豊縣ニ在リテモ民國二十九年約三
八〇〇元ノ經費ヲ計上シアリ。然レトモ諸種ノ事情ヨリ教育計畫
對スル十分ナル經費ノ捻出ノ困難ナリシコトハ容易ニ推察サレ、待
遇改善問題ノ解決モ亦急速ニ望ミ得ヘクモアラス、政府ノ意圖今尙
實現ニ遠キモノノ如シ。

(九) 結語

重慶政府力過去ノ教育方法ハ單ナル外國ノ模倣ニシテ各教育部門ヲ
分立セシムルモノトシテ之ヲ排シ、中國傳統ノ文化ヲ重ンジ、自
然の文化的國情ニ即シタル獨自ノ教育ヲ實施セントシ、相當眞劍ナル
態度ヲ以テ臨ミツツアルハ注目スヘキ價值アリ。尙江西省一帶ニハ
我國ノ大學等ニ留學シタル者少ラザル模様ニテ留學紀念品、證書
如キ隨處ニ數見セリ。之ヨリスルモ該地方一帶ノ富農ノ餘裕ナル生
計ヲ推知シ得ルト同時ニ、更ニ又將來ノ宣撫指導方策立案ノ上ニ或種ノ
示唆ヲ與フル點アラサト思惟ス。

(一) 傳染病流行狀況

民國三十年度ニ於ケル法定傳染病ノ發生狀況左ノ如シ

病別	患者數	發生月
デフテリヤ	三	二月
痘瘡	三	二月
赤痢	四	三月、六月
流行性腦脊髄膜炎	一	五月

マラリヤハ十一月ヨリ十二月ニ亘リ一七三名ノ罹患者ヲ認メタルモノノ熱種別ノ記載ナレ。毎年秋季ニ多ク發シ住民ノ二五%コレニ罹患セリト。

コノ度土着民ニ就キマラリヤマラリヤ調査ノタメ採血セルガソノ検査成績ハ改メテ後日報告セントス

めくれず

(二) 衛生施設並ニ防疫状況

城内所在ノ衛生機関トシテ縣衛生院ノ外ニ軍政部第
 第七九兵站醫院、駐縣憲兵第十五團醫務所及
 洋醫大同醫院、同仁醫院診所、仁濟醫院其他
 四軒、中醫數軒アリ。更ニ主ナル鄉鎮ニハ夫々一ヶ
 所ノ診療所ヲ有ス。藥商ハ中藥商鋪十數軒下リ
 縣衛生院ハ唯一ノ公立醫院ニシテ省衛生處ノ管
 轄下ニアリテ醫員十名ヲ擁ス。コレ等ノ醫員ハ年ニ
 一回(六月ト十一月)附近部落ノ巡迴診療ニ從事ス。防
 疫工作トシテハ福建省、義烏、衢州等ノ「ペスト」發
 生以來、己カ豫防ノタメ住民ニ捕鼠ヲ獎勵シ、清掃
 作業ニ從事セシメ、交通要路ニ於テ「ペスト」検査ヲ實
 施ス。

防疫注人		コラワチン	
七三七	第一回	二三四	第二回
			一

痘種人		痘種人	
七七〇	初種	七四五	復種

當地ニテ使用セル「ペスト」ワクチンハ昆明製ニシテ「コラワチン」
 クチンモ亦恐ラク、同地製ナルベク、ジャバヨリノ製品モ使
 用シ居タルモノ、如シ。ソノ他衛生院ノ業務ハ診療、
 保健、環境衛生、衛生教育等、各方面ニ亘リ。
 以下ニ掲グル統計表ハ特ニ記載ナキ限り民國三十
 一年調ノモノナリ。

診療統計

來診		往診		巡迴診療	
新患者數	舊患者數	新患者數	舊患者數	新患者數	舊患者數
二、三九〇	八、四七	二、二九	二、一三	一〇七	二八

めくれず

病別		統		計	
病別患者数	病別患者数	癩	狂犬病	瘧疾	癩
疥癬	軟性下疳	急慢性結膜炎	膿疱疹	濕疹	皮膚病
第四性病	中耳疾患	角膜炎	齒齦炎	齒槽膿漏	其他
外耳疾患	寄生虫病	胃腸炎	咽喉病	癩痢	精神病
消化不良	疥癬	胃腸潰瘍	其他結核	神經衰弱	其他
其他消化器疾患	其他	月經異常	淋病	疥癬	其他
其他	其他	其他	其他	疥癬	其他
其他	其他	其他	其他	疥癬	其他
其他	其他	其他	其他	疥癬	其他
其他	其他	其他	其他	疥癬	其他

産前検査人数	産後検査人数	健康検査人数
三四	三五	一九三一

尚民國二十九年三月壯丁検査ヲ實施セルニ受驗者五七七名
 中合格者三九八名ヲ得ニ等々四月國民兵團ニ入團セ
 レタリ。

環境衛生工作統計

項目	並普通 察回数	調査回数	警告回数	取締回数
飲人食店	一五三六	一一〇八	二五七〇	二〇
公共場所	八四一	五二一	一〇一〇	三六
戶外清掃	二七五四	一五八六	四六四〇	四七
屋內清掃	一六五五	一一六一	二七三二	三七

めくれず

衛生教育工作

口頭、文字及繪画ニヨル宣傳ヲテ、且ツ縣宣傳委員會
民衆教育館シノ他ノ文化團體ト連絡ヲトリ、以テ衛生
ノ衛生知識向上ニ努メタリ。

四 抗戦力ヲ主体トスル軍政黨ノ動向

(一) 緒言

新縣政ニ即應シテ黨組織ノ改變ヲ實施シタル國民黨ハ本縣ニ於テモ
縣黨部、縣國民兵團ヲ中心トシテ相當廣汎ニ互ル積極的活動ヲ示シ
ツツアリ、アラユル官民ノ機關ヲ黨ノ指導監視下ニ置キ、官吏教師
ハ總テ入黨セシムル等ノ方針ヲ採リタルモ、黨各級組織自体ノ不健全
ハ急速ニ革命ムハクモ、ナク、黨員ノ増加ハ右方針遂行ノ上ニ、
困難ノ度ヲ加フルニ過キサルカ如シ。其ノ執拗ナル政治的工作ノ反
覆ニヨリ或程度体系化サレシ觀アル敵側抗戦力ノ實体モ畢竟確固タ
ル思想的基礎ノ上ニ立テタルモノニ非ル結果ハ近來頓ニ濃厚トナリ
シ厭戰心理ト軍民間ノ深刻ナル離反ヲ證明スル幾多ノ事例ニ徴スル
モ明ラカナル所ニシテ、今ヤ其ノ呼號スル抗戦到底ノ標語モ空シク
内部的崩壞ノ兆明瞭ニ表面化セルヲ認ムルコトヲ得。

(二) 工作概要

1 縣黨部

縣黨部ハ抗戰現段階ノ打開ヲ目指シテ縣各機關ヲ確守ニ把握シ、指導監督ヲ下ニ抗日統一陣線ヲ強化セント企圖シ、上記社會教育各機關等ニ對シテモ黨ノ總旨徹底ヲ強調スル一方民族工業萌芽ノ培養及勞働者生活ノ安定ヲ圖ランカ爲ニ勞働ノ協調ヲ提唱シ、更ニ地方郷政基礎ノ樹立、兵役ノ檢査、郷政ノ監督ニ對シテモ極力輔導セントスル意圖ヲ有シタルカ、民衆ハ形式的ニ黨者ヲ遵奉スルノミニテ積極的ニ之ニ呼應シカスル熱意ヲ缺キアリシ爲何レモ著ルシキ成果ヲ結フニ至ラザリシ、實狀ナリ。

2 國民兵團

(1) 縣國民兵團ハ團管區司令部ニ直屬シ地方警衛事務ヲ担當シ且區保安司令ノ指揮ヲ受ク

- (2) 團長ハ縣長兼任シ全縣ノ國民兵ノ組織管理教育ノ全責ニ任ス 副團長ハ團長ヲ輔佐シテ一切ノ事務ヲ處理ス
- (3) 團附二、事務員一乃至三名ハ國民兵ノ組織、管理教育、人事、徵用、服役等ノ事務ヲ分掌ス
- (4) 各種工作ハ區隊部ヲ中心トシ其ノ要項概ネ次ノ如シ
- (イ) 精神總動員ノ訓練、國民公約及誓詞ノ宣讀及違反事項ノ有無檢査

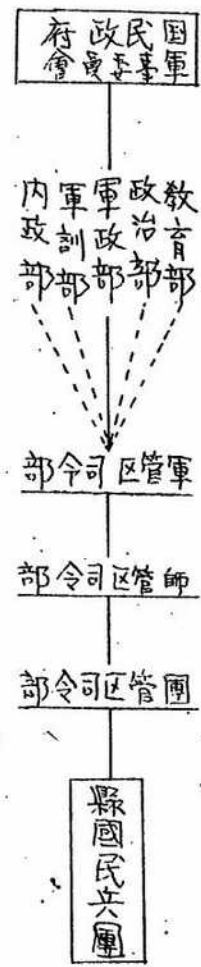
(ロ) 新生活訓練ノ實施

(ハ) 國家民族觀念ノ啓發

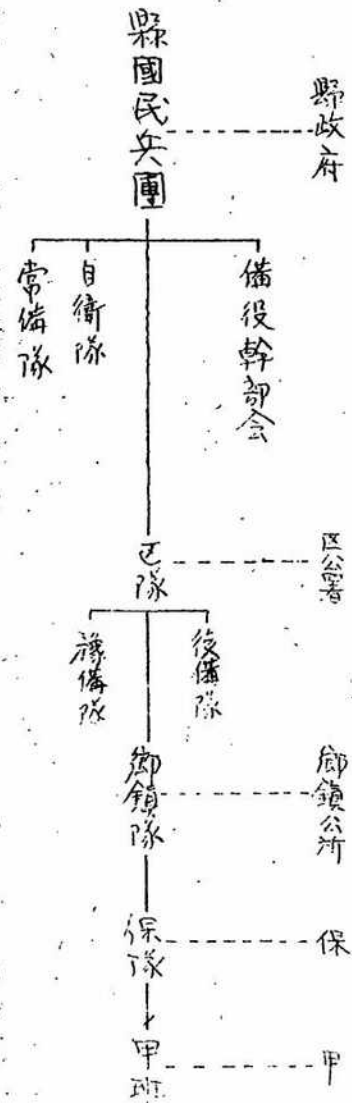
(ニ) 抗敵思想ノ激發

(ホ) 兵役勞務義務ノ闡明

(5) 國民兵團行政系統表



(6) 國民兵團組織系統表



3. 縣警察局

縣政府ノ直屬タル警察局長司ハ縣政府工作ニ協力シ内部的ニハ治安工作 建設工作ニ對シ政府ノ抗戰司令ヲ遂行セリ

4. 教育工作

學校教育ニ對シテモ時々軍政黨ヨリ幹部ヲ派遣シテ指導ス
民衆教育トシテハ毎月各係ヨリ青年一名宛ヲ縣黨部ニ出
席セシメ團支部ヨリ幹部出席ノ下ニ時々及抗戰教育
ヲ施シ、教育終了後之ニ帰係ヲ命ジ抗戰遂行ニ関シ
民衆指導ノ責ニ任センナリ

六. 宣傳工作

抗戰歌劇團 青年劇社 演劇中流等ハ名稱ヲ以テ漢奸
取締ノ方針ヲ織込ミテ活劇ニシテ民衆宣傳工作ニ願
ル活潑ナリ

三民主義青年團其他民衆指導下ニ各城市鎮ニ於ケル抗戰
宣傳、發行作成工作等モ相當範圍ニ亘ツテ效果ヲ示シア
ル

(三) 民心ノ動向

當地方ハ一般ニ物資豊富ニシテ民情質樸、勤儉ノ風認メラレ、特ニ
事變前ヨリ自動車道路發達シアリシ爲物資ノ搬出入極メテ活潑ニ行
ハレ、事變後三ヶ年位ハ特ニ戰爭ニヨル封鎖ノ影響ハ痛感セス、日
用必需品等モ最近漸ク缺乏ヲ來シタル程度ニ過キス。從ツテ愈々戰
禍身邊ニ迫リテ生活ノ脅威日ニ増大シ、家田ヲ棄テ、離ヲ山野ニ避
クルニ及ヒ、縣政府並ニ軍政黨當局ノ徹底的宣傳ト相俟ツテ日六軍
ノ殘虐非道ナルコトヲ妄信セシメラレ、此ノ恐怖ハ極メテ強ク一般
民心ニ浸潤シナリ。
所謂抗日意識ノ鼓吹ニ關シテハ小學校教育ニ於テモ週四回ノ常識學
講義ヲ行フニ際シテ抗日教育、軍事智識、防空思想ノ注入ヲ主眼ト
シタルモノ、如ク、教室ニモ軍事ボスター、抗戰標語等夥シク貼布
シナリ。
カ、ル政策ハ敵側ノ逆宣傳ト呼應シテ一般有識階級ニハ相當徹底シ

アリト判官セラルル事ハ、農民ニ在リテハ生活ノ不安定及壯丁ノ減少等ニ依リ民心動搖シ、民族的及國家的觀念ヨリハ寧ロ自己保全ノ爲ニ和平ヲ希望スル傾向尠カラズ

尙當地方ハ毎年雨季ニハ河流大ニ増大スルヲ以テ水車ノ設備モ相當多ク等ニ雨季ニハ利用價值大ナレトモ雨季經過スルト共ニ利用價值モ激減スルヲ常トス。從ツテ此ノ雨季ヲ利用シテ精米シ以テ夏季ニ應スルヲ通例トス。故ニ精白セル新米殆ト盡キタル現在若シ日本軍徵退セリト雖、雨季後ノコトトテ精白ノ動力ナク住民ノ主食物獲得ハ極メテ困難トナリ、現在迄ノ我軍作戦中ニ於ケル軍資現地調達等ハ極メテ困難トナリ、我軍内經濟ノ逼迫ヲ過大ニ宣傳セントスル軍部ノ要務ト相俟ツテ、我軍内反感ニ轉シ得ヘキ可能性アルモノト認メラル。

第二節 衙縣

一、行政機關

(一) 民政

1 鄉鎮保甲

本縣ハ元二十一年鄉鎮ナリシモ新縣制ノ規定ニ從ヒ九鎮十三鄉、三〇九保、四五〇六甲トシ、九個ノ工作指導區ニ分チ縣政府ヨリ指導員ヲ派シテ直接指導ス

(1) 鄉鎮公所ノ編成ハ、鄉鎮長一人、副鄉鎮長一人、(但シ十保以上ノモノハ一人ヲ増ス)、股主任四人專任幹事四人乃至六人、事務員一人乃至二人、書記二人ナリ。經費ハ縣補助費トシテ甲乙丙ノ三級ニ分チ、甲種年一、一〇四元、乙種年一、〇四四元、丙種年九八四元ヲ支給ス。自辦事業費ハ最低年八、〇〇〇元ヨリ最高一、二、〇〇〇元ニシテ、以上ノ中行政費ハ三割乃至四割トシ他ノ事業費ナリ。毎月一回鄉鎮務會議ヲ舉行ス。全縣鄉鎮民代表ハ六、

一八人ニシテ三ヶ月ニ一回郷鎮民代表會ヲ舉行ス。

(2) 保辦公所ハ保長副保長各一人、專任幹一人(但シ現在兼任ノ所一六二保アリ)、辦公所經費ハ最高五四元最低一三元ナリ。保民大會ハ三ヶ月毎ニ開ク。

甲長ニシテ訓練ヲ受ケシ者二、七〇三人ナリ、甲居民會議ヲ開キシ居ル甲數ハ全數ノ約五分ノ一ニ過ギズ

2 救濟

(1) 縣振濟會ハ委員一人、主任委員一人、幹事五人、中專任幹事一人ニテ組織シ、年五〇〇元ノ縣款歲入ニテ賄フ。從來組織俸トズ三十年八月刷新改組シ幾分成績ヲ見ルニ至レリ。

(2) 縣救濟院亦過去ノ成績不良ニシテ、將來ハ育嬰孤兒兩所及養老院廢所ノミトシテ整理經營セントセリ。縣款歲入一四、九八八元アリタリ。

(3) 難民收容散諸斃方面ヨリノ戰禍ニヨル難民多ク城區ニ集レリ仍テ

大人毎日四角小人二角ノ食費ヲ給與シ、職業紹介、空襲予防ノ爲郷村ヘノ疏散ソノ他營業資金ノ援助等ヲ行ハリ、ソノ經費四七一〇〇元ナリ

3 積穀倉儲

(1) 舊有積穀ノ整理、本縣ノ積穀ハ開始以來歷代責任者ノ整理引續ナク、回收不能ノ貸出、流用等多ク紊亂ノ極ニアリシ爲三十年二月整理辦法ヲ定メ、調査ニ着手セルモ異サズ、全年七月下旬ノ縣行政會議ノ決議ニヨリ縣積穀倉管理委員會ハ委員ヲ郷村ニ派シ調査ノ上追徴ヲ爲シ整理スルトナレリ。三十年九月ニ於ケル現存數ハ、縣積谷四九八七、九九市担、郷村積穀八六二六、五五市担、縣積穀款一〇七、四〇〇元ナリ。郷村款ナシ。

(2) 倉、縣倉一所、縣分倉四所、郷鎮倉七八所、縣流動倉五〇
(3) 積穀委員會、縣委員會ハ委員一三人毎月一回常會ヲ開ク、職員三

人、郷鎮委員會ハ委員數三人凡五五人、隔月ニ會議ヲ開催ス。
4 出征兵士遺家族ノ優待

(1) 各級優待機構ノ調整、縣優待會ハ民國二十九年十二月以前ハ會ニ隸屬シキタルモ、二十九年九月ノ全省兵役會議及全省行政會議ニヨリ改組シ縣政府ニ屬セシメ、總幹事、事務員、書記、會計ノ專任辦事員ヲ設ケ、總務、調査、優待、財務ノ各組ニ分ケ兵役科ト密接ナル連絡ノ下ニ處理スル事トセリ。

郷鎮支會ハ民國二十七年ニ組織ヲ命令セルノミニテ、未ダ組織セザルモノ半數以上モアリ、且組織セルモノモ有名無實ノ狀態ニリタレバ、更メテ改組ヲ行ヒ未組織ノ郷鎮ニ對シテハ組織方ヲ促セリ。

(2) 出征兵士家族ノ調査、本縣三十年度以前ノ出征兵士家族ノ名簿ハ不完全ニシテ、人數モ不正確ナレバ、二十九年十二月ヨリ調査ヲ各郷鎮ニ台帳ヲ作成送附セシムル様命令シ、尙夫々人員ヲ派シ

テ復査セシム。戶口台帳ト出征兵士名簿台帳ヲ作成、以後新兵ノ出征毎ニ登記スル事トス。全縣出征軍人家族數一、八五四戶、優待證ヲ發行ス。

(3) 優待基金ノ募集、二十八年九月ノ縣優待「兵役延期系除」證書費ノ未納入者尙多數アリ、本會ハ優待基金ヲ充實スル爲各郷鎮公所ニ證書ヲ交付シテ代收セシムレド、死亡ソノ他延期原因ノ消滅或ハ貧困ニヨリ納入金ナキ等ソノ効果上ラズ僅カニ三〇〇元ヲ集メタルノミ

二十九年度ノ縣優待納金ハ十二月下旬名簿ヲ作成、三十年三月集係優待暫行辦法ヲ制定、各郷鎮長ノ責任ニ於テ徵集スル事トシ專任徵集人員ヲ設ク、二十九年九月ノ徵集予定數二五三、二四四元ニシテソノ中ハ二一三八、七九九元ヲ徵集シ、省軍役救濟基金トシテ六九、三九九・五元ヲ割當テソノ餘ハ徵集督促中
ソノ他民間有志者ヨリ寄附金ヲ募集ス

5 戸籍

戸口總検査、三十年省定戸口検査（四月十日）ノ一ヶ月以前ニ予備検査ヲ施行、四月十日更ニ正式検査ヲ實施セリ。全縣戸口統計ハ左ノ如シ、但シ右數字モ不正確ナル事勿論ニシテ、彼等ハ只形式ヲノミ重シソノ正確度ハ疑ハシク、検査員亦文盲者多ケレバ、遺漏間違ヒハ當然ノ事ナリ。タゞ大凡ノ状態ヲ知ルニ過ギズ

戸口検査統計

戸数	共計		普通戸		船戸		寺廟戸		公共戸	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
總人口	363465	360748	477	334	155	204				
男女別	男 200223	女 163182	男 198023	女 142705	男 263	女 208	男 274	女 60	男 1723	女 187
人口数	89495	72591	88964	72388	111	87	28	16	392	100
年功	69689	58223	68429	58042	90	84	76	18	1094	99
壯	41099	32368	40630	32295	62	39	170	28	237	10
老	24520	6619	24250	6564	26	13	54	19	199	23
既婚	81804	84117	80856	83970	139	73	105	23	706	152
不識字	7985	7944	79100	79333	81	61	48	14	23	6
識字	41293	9217	39814	8996	14	11	73	21	1392	187
有業	113309	404	111406	438	93		139		1669	54
無業	16982	19541	11059	7472	7	5	8	5	208	79

人事登記 (三十年)

	出生		死亡		遷入		遷入			
	男	女	男	女	男	女	男	女		
四月	70	64	158	113	36	52	35	24	46	32
五月	140	101	205	142	27	87	39	29	98	44
六月	86	62	263	203	17	70	33	18	48	29
七月	175	183	142	113	51	145	113	56	235	139
	471	410	768	571	121	354	218	127	427	244
	差引減 458人				差引減 218人		差引減 127人		差引減 244人	
計	減		557人		減		67		99人	

(二) 警察

1 機構 警察局ハモト總務行政司法ノ三科ナリシヲ三十年三月ヨリ行政ヲ廢シ總務科ニ合併セリ、本縣全警察人員ハ一七二名城區三鄉鎮三一〇八名ソノ他ノ地域ニ八派出所六四名ナルガ尙一二ノ鄉鎮ニ警察ナク三〇年度ヨリ一〇〇名増員ノ計畫ナルモ經費ノ都合ニテ未ダ實現ニ至ラザリキ、組織内部總務科、司法科、督察處、政訓組、外部警察隊、各派出所。

2 人事 本縣警官總數二十二人、長警一七二名、扶役二五名ナリ三十年度ヨリ上ハ三割八分ヨリ下ハ六割ノ増俸ヲ行ヘリ、卽三十年度現給ハ局長月一三八元、科長督察長九八元、科員督察員六六元辦事員四〇元、四五元、書記三五元、巡官五〇元、長警(巡查)ハ一等警長二三元、二等警長二一・五元、三等警長二〇元、一等警士一八・五元、二等警士一五・五元トシ尙警長ハ毎月米手當二元ヲ給セリ。

警察員ノ知能程度頗ル不同ニシテ工作能率上ラズ仍テ省ヨリ政治
 訓練員ヲ聘シ隨時訓練ヲ與ヘルト共ニ、三十年二月ヨリ全
 ヲ二ヶ月ヲ一期トシテ四期ニ分チ、每期四〇名宛訓練ヲ與ヘ居レ

3 裝備

種類	數量	彈藥	種類ノ不同ニヨリ
各種歩兵銃	一五四	九五二五發	使用ニ異ハザル
木壳槍	二〇	二九一八	ノ少數アリ
輕機	一	一五〇	
手榴彈	七二		
連發鳥銃	一		

4 治安増強 異黨人(共產黨)數姓名住所及活動組織ノ檢査
 凡山系内ノ異黨活動モ亦察レ難シ、之

ノ嚴重ナル検査ヲ爲ス。又本縣ハ浙東軍事上ノ重要地點ナレ
 バ漢奸ノ潜伏ヲ防止スル爲郷鎮ノ連絡ヲ密ニシ併セテ盜匪ヲ防グ

(三) 財政

- 1 田賦 收入ノ主タルモノハ田賦ナリ、中央ノ規定ニヨリ三十年七
 月ヨリ全テ現物納入トス、ソレニヨル本縣上下期正税及省縣附加
 税ハ八九、〇九七石二一七合トナリ、ソノ七割ヲ實際徵集額トセ
 バ六二、三六八石ナリ、又二十一年ヨリ二十九年十二月迄ニ於テ
 ル未收正税ハ二一、六八〇・八四元ニ上レリ、稅務局ハ清造欠
 賦主任一人、清洎欠賦員四人ヲ置キ徵集セシ結果一月ヨリ七月迄
 三萬未納正税三二、〇〇九・四四元ヲ得タリ
- 2 契稅 本縣ハ未ダ不動産評價委員會ノ組織ナク、地主ハ常ニ評價
 ヲ低ク報告シ、之ガ取締リノ法ナシ、仍テ右委員ヲ組織シ、地價
 ヲ表ヲ以テ公告シ其ノ弊ヲ除カント計劃ス

3 ソノ他地方公産、郷鎮財産ノ整理、昔細禁捐ノ廢除及各項捐納
 釐正ヲ行ヒ妥當ナル稅率ニ改正セリ

衛 縣 三 十 年 度 賦 政 詳 報 推 查 表

中 央 地 區					原 敵 每 度 年 九 十 三					積 地		面 田	
稅 率		稅 目		稅 目		稅 目		稅 目		稅 目		稅 目	
塘	山	地	田	地	塘	山	地	田	地	山	田	塘	地
0.25	0.019	0.0905	0.1757	正稅 上期	1.15	0.19	0.905	1.075	上 期	1.375	489.8545		
0.014	0.003	0.019	0.0118	下 期	0.14	0.03	1.09	1.08	下 期	1.375			
0.348	0.096	0.252	0.469	附稅 上期	3.15	0.986	2.594	4.077	上 期	3.375	213.717		
0.019	0.003	0.016	0.0336	下 期	0.34	0.036	1.7	1.344	下 期	3.375			
											總計	160.000	2.0
					4.669	1.238	3.780	7.086	每畝負擔正附稅總額				

科目	決算		増	減
	二十九年	二十八年		
彌縣地方歳入	三三〇、二二六	三二七、三六六	六四、七五二	
田賦附加	六一、五八五	七、七三九	五五、三五一	一六、二六三
各項捐税	一三、七五九	一八、三二七	七、七八	三、九三五
地方財産	三、四一〇	一、六三四	一、七七六	
地方事業	七、八六五	六、七三九	一、一二六	
地方行政	六、八四九	三、五八八	三、二六一	
各項補助	一三、八〇〇	四、〇四七	七、八七三	
什項收入	二、八五九	九、三六九	六、五一〇	六、九四九
彌縣地方歳出	四一五、一九八	三八五、四五五	二九、七四三	
党務費	八、八五〇	五、五八六	三、二六四	
行政費	七六、五〇六	三三、五三九	四二、九七六	
自治費	三一、三八四	二七、五五四	三、八三〇	
公安費	四七、四一〇	三三、三三四	一四、〇七六	

本表数字は
総務部所管
計数ナリ

めくれず

保衛費	四〇、四四三、一〇			
什項支出	三、〇五四、五六	三、八一九、六二	八、二三四、九四	四〇、四四三、一〇
軍訓費	八、三八九〇、二〇	四、三〇五、六二	四、八三三、四八	
救郵費	三、七、六八五、四七	一、八、三八〇、八八	九、四〇四、五三	
衛生費	二、八〇〇、四九	五、五〇五、九三	二、三九四、五六	
建設費	三、六八五、九八	五、四〇八、八四	七、三九七、二四	
教育文化費	七、三、三〇七、八九	四、六、九三、八四	二、五、三〇九、四八	
職務費	三〇、六八八、〇四	三、四、九五八、四〇	五、七三四、六四	

衢縣三十年度及二十九年年度縣下各科目車

科目	三十年度	二十九年	増減	備考
衢州地方歳入	八七九、七八九	四、五〇九、三	四、二八、八六六	
田賦收入	四三三、五三三	二、一、五九五	三、七三、九四〇	在表各額 数字ハ 附録 表ハ 計 表 ハ 入
稅損收入	一七五、九〇〇	一、六〇、九三二	一四、九八七	
延罪及賠償收入	七、〇〇〇	三、三四四	三、四五六	
規費收入	七、〇〇〇	七、五四一	五四一	
物産賃借收入	三、〇〇〇	三、一八八	一八八	
組合及川港收入	四、〇〇〇	三、三〇四	六九六	
利息及利潤收入	三、〇〇〇	一、一三〇	八八〇	
補助收入	一、四九、三五四	二、七、七九一	三、一、五六三	
其他收入	二、〇〇〇	四、三、〇〇〇	一九、〇〇〇	
代辦項下收入		一九、三三八		
衢縣地方歳出	八七九、七八九	四、五〇、九三三	四、八、八六六	
政權行使支出	一、三、九四〇	八、八五〇	四、〇九〇	

めくれず

行政支出	一九四、五〇〇	二二〇、〇八一	八二、四一九		
教育及文化支出	一六五、九九四	七九、七六三	八六、三三二		
保健及建設支出	三六、四〇〇	一四、八九六	二一、五〇四		
保善及救済支出	五〇、〇〇〇	三〇、一〇八	一九、八九二		
保善支出	二二〇、八三八	一四三、六四三	七八、一八五		
賤賃支出	八、八〇〇	三三、九九五		二四、四一五	
公務員並保俸給	三六〇		三六〇		
其他支出	二八、五三六	一一、八四二	一六、六九四		
總源備入金	一四一、三五二	五、六〇〇	一三五、七五一		
衛生及治療支出	二〇、〇〇〇	二、八四六	八、一五四		

三、教育施設

(一) 教育行政

中心學校ハ一應全郷鎮ニ設立セリ國民學校モ大体予定計劃通りニ進歩ス、但シ教員ノ缺乏甚ダシク三十年二月縣立戰時初級中學生補習學校ヲ改組シ縣立簡易師範トス、然シ乍ラ目前ノ缺乏ヲ救フ爲別ニ縣立短期師資訓練班ヲ設ケ(縣長、教育科長ヲ正副長トシ)一年内ニ代用教員一〇〇名ヲ養成セントセリ

學齡兒童及失學民衆ノ調査(別表参照)ヲ爲シ省肅清文盲方案ニ基キ肅縣「肅清文盲分年辦法」ヲ制定シ肅清工作ヲナス。

抗戰功助子女就學費審查委員會、強迫入學委員會ヲ組織スルト共ニ教育指導員ノ増員ハ一人一ヲ爲シ全縣小學校長教員任係規程作成ヲ計畫ス。

繼續進行事項トシテハ(一)社會教育推行委員會ノ繼續設立、現任小學教職員及社會教育工作人員ノ登記、抗戰補充教材ノ編印、各區

教育會ノ組織ヲ促シ縣教育會ヲ改組ス

(一) 學校教育

1 各級學校ノ國民兵役教育抗戰期間ハ軍事第一トシ特ニ本縣ハ兵役實驗縣ナル爲、各級學校ニハ兵役課程ヲ設ケテ國民兵役教育ニ力ヲ注ギタリ、而シテ抗戰兵員ノ補充ハ最モ重要ナレバ所謂政治ハ軍事ヨリ重ク、宣傳ハ作戰ヨリ重シノ原則ニ基キ、各級學校ハ休日ヲ利用シ學生ヲシテ兵役宣傳ヲ爲サシメ、又ハ直接救亡工作ニ參加シテ宣傳シムルト共ニ各地民衆ニ對シ兵役法令ノ解決ヲ爲シ兵役質疑民衆問訊處ヲ組織セリ

2 生産教育ハ學校ノ中心工作ノ一ニシテ、各級學校ハ農事、工業、合作社ノ三項ニ分ケ、農業生産教育ヲ原則トスソノ經營ハ各校ノ臨時費、又ハ合作金庫ヨリ特別借款シテ支出ス

3 中心學校ノ輔導ハ中心學校輔導工作大綱ヲ定メテ之ヲ實施スルト同時ニ中心學校ノ教導主任ハ三十年代ヨリ縣直接人員ヲ派遣シ、

以テ學生ノ思想統制、黨化教育ヲ行ヘ可ク計劃セリ

4 抗戰教育施設、各級學校學生ノ抗戰情緒ヲ激發スル爲ノ適當ナル環境ヲ作り材料ヲ備フル等ノ施設ヲ獎勵スルト共ニ、各校小學生ノ戰時常識ノ測驗ヲ行フ(三十年十月)ソノ他教育ノ修學、研究會ノ組織ヲ獎勵シ、兒童ノ健康競技ヲ行ヒテ体育ニ意ヲ用ヒ、教師ノ待遇ノ向上ヲ計ル等ノ施設ヲ爲ス

(二) 社會教育

「各級學校兼辦社會教育辦法」ノ規定ニヨリ各學校ニ民衆學校、識字班ノ附設ヲ督導ス。本縣文盲統計ニ基キ三ヶ年間ニ文盲ヲ一掃スベク、中心學校國民學校ニ令シテ成人班、婦女班ヲ設クル外機關團體ニ民衆學校ヲ設立サセ、更ニ保甲制度ヲ利用シテ保甲教學制ヲ試行セリ

縣立民衆教育館ノ人事ヲ刷新シ活動力アルモノトシ館内ニ抗戰

座ヲ設ク

又中等以上學校ノ學生ノ休暇ヲ利用シ、各學生ノ住居地區別ニ小
組ヲ編成シ各鄉鎮公所ト協力シ民衆學校ヲ開設セシム、三十年ニ
於テ實施セル數七十二所、學生二、六三六名、經費一校十元宛七
三〇元ナリ

四 教育經費

1 中心學校國民學校基金ノ籌集、中心學校高級部ノ經費ハ縣負担ト
シ、初級部ハ各鄉鎮負担トス。保國民學校ハ漸進方針ヲトリテ一
時ニ學校數目ノ擴大ヲ求メザルヲ原則トシ、固定財源ノナキモノ
ハ校長ヲ任命セズ、故ニ己ニ開設セル學校ハ中途ニシテ停止スル
ニ到ル處ナシ。

2 教育財産委員會ヲ組織シテ教育財産ノ整理ヲ爲シ、教育經費ヲ增
籌シテ教育事業ノ發展ヲ計ル、

三十年教育經費概況

學校教育經費	一五、五三八元
國民教育經費	一三〇、一二〇元
社會教育經費	一九、〇七〇元
各項教育經費	一、二六二元
各項臨時經費	三、九〇〇元
各項予備費	三六、五二一元
民衆教育館設備修理費	三、〇〇〇元
計	二〇八、四一五元

(縣總經費ノ二四パーセント)

教育經費ノ獨立保持ニ努力スレド困難ナル模様ナリ
更ニ教育用品合作社ヲ組織シ、學校、教職員、學生ノ負担軽減ヲ
計ルト共ニ各小學校ノ學費徵集額ノ多寡不同ナルニ鑑ミ市價ヲ察
シテ標準ヲ定メ、規定書簿工費、衛生、教育儲金及雜費等ヲ包含

學校教育

學校類別	校數	班級數			教職員數	學生數	
		兒童班	成人班	婦女班		兒童	成人
中心學校	三三	一〇一	一八	一六	一七九	四七九	六三三
國民學校	一四二	一九二	四四	四二	三四〇	八五六	一五四四
私立小學	四	一四			二七	六四一	
區立初級小學	四五	四九			四八	三三九	
私立初級小學	五五	五六			一三三	三〇九	
計	三六八	四三三	六三	五八	七六〇	一七四九	二七六
公立簡易師範	一				二		一〇〇人
私立簡易師範	一				七		九九人

教師現在數 四七六人 登記及檢定合格數 二五一人 不合格數 八三人 檢定未參加者 一〇二人
 國民教育實施要綱教師數 九七人 現有教員訓練校內教員 二校 年 二〇〇人 未參加
 教員待遇 中心學校校長 五五〇—七〇〇元 教員 一四〇—二〇〇元
 國民學校校長 四〇〇—五〇〇元 教員 三〇〇—四〇〇元

省立衢州中學

科別	學生數	教職員數	經費數
高中	二三七	一七	
初中	六一九	二九	五三、九四〇
簡易師範	一二九	一一	

社會教育施設

- 民衆教育館 一 流動施教團 一
- 公共體育場 一 縣立圖書館閱覽處 五
- 中學生辦理暑期民衆學校 七五 報社 一
- 歌詠戲劇團社 一

三 衛生施設

(一) 衛生行政

浙江省政府ハ新縣制ノ下ニ於ケル各級衛生機構ノ整備擴充ヲハル
 リ、「浙江省施政三年計劃綱要」ニソノ分期推進ヲ規定シ、之ニ
 基キ本縣ノ縣衛生院ハ從來ノ縣立醫院ヲ改組シテ民國二十九年二
 月一日ニ成立ス。十、三十一年末ニハ杜澤鎮衛生分院設立ノ旨ヲ
 リ。ソノ組織經費及事業概況次ノ如シ。

衛縣縣衛生院 (等級特種)

1 組織

院長一、

會計佐理員 (三十年度一名ヲオク)

醫師一、(三十年度四人ニ増加)

事務員 ()

公共衛生護士 (三十年度一人ヲオク)

調劑員一、

護士 一、(三十年度四人ニ増加)

衛生稽查員 (三十年度一名ヲオク)

助産士一、

衛生助理員 (三十年度二名ヲオク)

2 經費 二十九年經費分配：衛生費合計一、八四六元 (縣地方歳出總額ノ三・二%)

衛生院經常費

六六〇〇元

衛生院開辦費三五〇〇元

防疫費 二七〇元 清道費 一、四七六元

三十年度衛生費 縣款衛生院經常費 月一、〇〇〇・〇〇元

中央補助費 月一、〇〇〇・〇〇元

診療收入其他 二、九三六・一五元

3 事業概況

(1) 醫療：中央ノ公醫制度推行方針ニ則リ完全免費施診ヲ目指セル

モ、經費不足ト藥價騰貴ノタメ充分ニナシ得ズ。サレド他縣ニ
 比シソノ成績良好ナリシガ如シ。三十年度七、八月間ノ急費施
 診、計五七一名 (職民、軍警、公務員及各種機關人員)、全治
 療數ノ約四五%。

(2) 防疫：種痘、腸管傳染病予防 (コレラ・ワクチン・コレラ・フ
 ス混合ワクチン) ベスト豫防注射。

(3) 保健工作：健康検査、接生、産前産後ノ検査訪視等。
 「註」人口表ニ見ル如ク本縣ハ死亡超過ヲ示ス。同時期ニ於ケ

ル他縣ノ統計モ同傾向ニアリ。ソノ依ツテ來リシ所以ノ具體的
實態ハナシ。本縣其他浙省各縣ニ於テ借家寄居妊婦ノ屋内ニテ
ノ分娩ヲ禁忌スル風習アリ。保衛衛生問題トシテ取上ゲラル。
(4) 環境衛生改良：飲食（品）店ノ検査及改善指導（防鼠模範店、
選定等モアリ）、道路掃除、便所ノ検査及改善、公共便所ノ設
置、滅蚤、清潔指導、清潔検査等。

(5) 衛生教育及宣傳：講演、戸別訪問、傳單、「衛生旬報」刊行、

「衢州衛生」編纂。

(二) 醫藥施設及人員

醫師六資格證書十ク醫業ヲナス者一

(二十九年統計)

公立院一私立院一私立診所四 (病床數二一每月診療數一八六一)

(全右)

西藥舖六中藥舖一一七

「註」特殊ナル醫療施設

衛生署街縣花柳病防治所 (三十年九月開診)

衛生署滅疫治療站 (發疹子フス・回腸熱等ノ予防ノタメ主要都市ニ設ケ、衛生

署醫療防疫除工程隊之ヲ設フ。本縣ハ三十年十二月開診)

臺灣醫院 街縣診所 (臺灣義勇隊附設臺灣醫院 (在金華) 分所、二十九年十二月

開診)

中醫診療所 (國醫會ニヨル中醫ノ診察服務機關)

(三) 疫情概況

縣衛生院診治新病統計別表ノ如シ (次頁)

(四) ベスト流行トソノ防治概況

1 流行ノ經過。初發二十九年十一月十二日。同年十二月五日迄ノ
發生二一例、喉ベストト診斷、全例死亡、流行區ハ城區西北端ヲ
トス。十二月五日以後發病ナシ。

三十年三月五日再發。疫性劇烈ニシテ且ソ城市ニ擴散ス。鼠糞ニ
於ケル菌ノ證明モ高率。六月、肺ベスト患者ノ報告アリ。以後八月
末迄患疫死亡二〇一、疑似四一、漸減。

三十年十一月十四日復發シテ數例ノ死亡ヲ續發ス。三十一日年終期ニ入り痘鼠率増加ノ傾向アルト共ニ眞性患痘死亡散發シ、今次作戦迄ニ至ル。

2 防治概況。縣衛生院及ビ省衛生處ガ報告ニ接シ派員對策ニ課セラルハ初發後旬日、既ニ十名以上ノ患痘死亡ヲ出セル後ナリ。臨時防疫隊二隊ヲ編成シ一隊ヲ本縣ニ派ス。十一月二十二日、臨時防疫隊警察專員ヲ主任トシ各機關團體ヲ糾合シテ警察防疫員會ヲ組織ス。ソノ工作概況下ノ如シ。

疫區封鎖及消毒（硫黃、石灰、資陰カルシウム）隔離病舎設置、疫區内住民ノ隔離（船上遊居及隔離住所ノ設定）掩埋、予防注射、捕鼠滅蚤及ビ檢索、環境衛生改善及ビ防疫宣傳（清潔指導、講堂、演説場貼、傳單撒布、防疫運動大會及ビ清潔大掃除等）遊藝場及學校ノ臨時閉鎖（十一月廿五日ヨリ二週間）、街縣火車站ノ乘客檢査、及ビ法令公布（防制痘鼠疫疫情報告辦法、救急空嚔物品緊急處理辦法）

病名	二十九年	三十年	病名	二十九年	三十年	病名	二十九年	三十年
傷寒(副傷寒)	4	1	麻疹	7	10	疥癬	103	141
傷寒(副傷寒)	1	1	其他發熱病	7	7	其他皮膚病	48	63
傷寒(副傷寒)	1	1	肺結核	156	68	花柳病	468	84
傷寒(副傷寒)	1	1	其他結核病	28	43	受傷	17	5
傷寒(副傷寒)	1	1	其他呼吸器病	175	292	其他外傷	132	18
傷寒(副傷寒)	1	1	急性胃腸炎	25	29	中毒及自起	1	1
傷寒(副傷寒)	1	1	其他消化器病	22	24	產褥熱	1	1
傷寒(副傷寒)	1	1	心腦血管病	39	25	甲產後症	1	1
傷寒(副傷寒)	1	1	泌尿器病	1	3	其他	66	82
傷寒(副傷寒)	1	1	沙眼	27	33	診斷不明	57	57
傷寒(副傷寒)	1	1	其他眼病	50	146	計	975	333
傷寒(副傷寒)	1	1	但し三十七年八月五日以前ノ數ニシテ					

等々——十二月五日船上避居者二百名ニ遷居ノ自由ヲ與ヘ、十四日疫區ヲ開放ス。但シソノ一部ハ焚燬ス。

十月四日、日機低空飛行シテ去リシ後、蚕、小麥、烏麥、粟米等ノモノアルヲ見出ス。

衛生試験所ノ鑑定ニヨレバ人鼠共同ノ蚤、但シ培養試験ハナシ
十ホ三十年三月以降ハ城區住民ノ死亡登記及ビ售棺殮埋ノ監督ヲ
ナス。

第一次ベテスニ流行ニ於ケル防疫措置ハ以上ノ如ク、カナリ不徹底ニシテ後、三十一年二月、軍事委員會ハ衛縣ベテスニ流行遷延ノ責ヲ當時ノ浙江省衛生處ノ決斷姑息ニ歸シテ筋戒スル所アリ。コノ地ハソノ位地ノ上ヨリ黨、軍、各種行政系統其他ノ勢力關係力ナリ錯雜シ防疫機構ノ運用モ意ノ如クナラザリシガ如シ。三十年六月、防疫鼠疫委員會ヲ解消シテ浙江省衛縣臨時防疫所ヲ設立ス。縣款三萬元更ニ中央ヨリ二十萬元ノ補助アリ。

三十一年六月十日國際聯盟、防疫専門家オーストリーノパリス博士ガ中央ノ命ニヨリテ來衢、ベスト防疫指導ニ當レリ。又當時米國ヨリ藥械ノ捐贈アリ、衛生或ハ紅十字會ヲ通シテ給與サル「ベス」とワクチンノ如キハ昆明中央防疫處製又ハマニラ、フイリピン大學衛生學教室製ノ優秀ナルモノヲ使用シ居レリ。

ナホ三十年初頭以降ハ浙東ノ戰事屢々急ヲ告ゲ本縣ニ對スル空襲頻繁、且ツ浙省全般ノ不安化ハ又牽イテ行政人事ノ上ニモ及び、本縣衛生院長ノ更送（三十年六月、防疫所設立ト共ニ一省衛生處長ノ更送（三十一年初頭）等、技衛者幹部ノ動搖特ニ甚シキヲ推測セシム。

「ベスト」予防注射有菌鼠疫検査及ビ家屋消毒、概況表、也
 「ベスト」予防注射状況、蚤検査状況

年次	「ベスト」予防注射人数	鼠疫検査人数	有菌鼠疫検査人数	百分率	備考
民國二十九年	一七、四三	三、一	三	陰性	
三十年（自一月至三月）	二二、三四				
三十年（自一月至三月）	三、一三				
三十年（自一月至三月）	八七				
三十年（自一月至三月）	三、六一				
三十年（自一月至三月）	一、〇〇				
三十年（自一月至三月）	四、四				

有菌鼠疫検査状況

備考 三十年度調査衢州城内人口三九八、八、疫給水班ニテ検査

鼠疫検査人数 有菌鼠疫検査人数 百分率

有菌鼠疫検査人数 百分率

有菌鼠疫検査人数 百分率

ノスト発生家屋消毒状況

	消毒家屋数	備考	
民國三十九年	二一六	消毒法方 硫磺消毒	
三〇年(自三月至三月)	四、八一四		
三一(自四月至四月)	六、八〇七	石灰消毒 漂白粉消毒	
「コレラ」マア防疫注射状況			
「コレラ」ワクチン	一、一三五	備考	
「コレラ」ワクチン			
「コレラ」ワクチン			
種痘状況	初種	復種	計
民國三十九年	三三〇	一八三三	三〇五三
三〇年			三九八

四、抗戦力ヲ主体トスル軍政黨ノ動向

(一) 國民兵團

1 團本部婦女少年訓練員七人官佐四人、兼人二人、定員外督練員四人(新兵招待所服務)、見習官四人共二十一、士兵七人
 後備隊 二中隊 官佐一二人、士兵二二人(歩兵銃一八)
 自衛隊 二中隊 官佐一二人、士兵二五二人(歩兵銃一九〇)

2 地區別編組ト年次別編組ト地區編組ハ全縣二二鄉鎮隊三〇九保隊、四五〇六甲班アリ、年次編組ハ民國十二年隊ヨリ民國前十五年隊迄アリ、共計二七個年隊、鄉鎮隊ヲ單位トシ、各鄉鎮隊内ノ同一年次出生者ヲ以テ一隊ヲ編組ス、全縣二二鄉鎮隊ヲ合シテ五九四隊ヲ編成ス、國民兵六五、四六九人ナリ予備隊隊數一〇、國民兵一〇六〇人自衛隊ニシテ治安、輸送、救宣等ノ工作ヲ担任ス。

右ハ夫々短期ノ訓練ヲ受ケタリ。

(二) 兵役

本縣ハ徵兵時公然兵役ノ賣買行ハレ其ノ積弊久シクシテ一時ノ糾正ハ困難ナルモノノ如シ、且本縣ハ交通軍事ノ要衝ニ當リ駐防部隊或ハ整訓部隊及各機關極メテ多ク、之等ノ求人夥シクコレニ乘ジ避役者逃兵益々増加セリ。洎逃防逃各項辦法規定アレド處置ナク而シテ本省肅清逃兵暫行辦法ノ逃兵ニ關スル規定ハ本省籍、外省籍ノ區別ナキ爲少數鄉鎮及壯丁ハ逃兵ヲ檢舉シテ徵兵延期ノ權利ヲ取得スル者アリ、或ハ逃兵類似ノモノヲ拉シ來ツテ避役スル等ノ弊害甚ダシキ状態ナリ。且令錢ニヨリ代理者ヲ備フ者アリ中流以上ノ階級ノ入營者極メテ少シ。

三十年一、二、三期ニ於ケル依命徵集ノ中央宛兵額ハ已ニ二、七六九名ニ達シ法定額ヲ超過スル事ニ六九名ニ及ベリ。尙二十九年ハ八七三名ノ超過アリ、以上ノ事情ヲ考フルニ徵兵ニハ相當困難セル實

左ニ兵役統計ヲ示セバ
民國三十年度兵役統計

	甲級	乙級	小計
受檢スベキ壯丁	二八、九七七	三、〇八〇	三二、〇五九
實際受檢壯丁	一六、七六四	一、七七四	一八、五三八
未受檢壯丁	一二、二一五	一、三〇六	一三、五二一
受檢者ハ受檢スベキ壯丁數ノ六〇%ニ過ギズ如何ニ彼等ガ徵兵ヲ忌避シ居ルカ、窺ハルルナリ			
免緩停役壯丁	甲級 五、一五〇	乙級 一、七五四	計 六、九〇四
	一、九二三	八八八	二、八一一
	四二二	一九	六
	七、一一一	二、六六一	九、七七六

(三) 地方行政幹部訓練

省令ニヨリ地方行政幹部訓練所ヲ設ケ(三十年一月)縣訓練所ヲ
 籌備則ニ基キ經費一五、〇〇〇元ヲ計上、開設費五〇〇元ヲ除キ
 月一、二〇八元ヲ支給ス、訓練ハ期ニ分ケ鄉鎮保ノ幹部ヲ訓練ス
 (三十年度ハ左表ノ如シ)

第一期	鄉鎮公所幹事及保長	自三月一日 至全三十日	卒業者	三八人
	戶籍幹事	全	右	一二八
	婦女訓練員	全	右	二〇人
	少年訓練員	全	右	一九人
第二期	鄉鎮公所幹事	自六月二十二日 至七月二十一日		七人
	保隊附	全	右	一三八人
	糧食管理人員	全	右	二六人
第三期	保國民學校長	自九月十五日		一〇〇人

訓練課程ハ一般課程ト專業課程ニ分ケ、ソノ比率ハ精神訓練一〇、
 黨政學科二〇、軍事學科二〇、訓育實施三〇、專業訓練二〇ノ割合
 ナリ。

十五人ヲ單位トシテ小組ニ分ケ企スル問題ニ就テ對論ヲ爲シ法論ヲ
 ウル、訓練中ハ軍事訓練ト生活管理ヲ實施シヌベキ軍隊式生活ヲ爲
 ス。

(四) 三民主義青年團 (浙江支團 縣分團部)

1 組織、本縣分團部ハ二十八年九月成立セリ、所屬部隊四四、團員
 六一七人現在迄ノ吸收セル團員ハ多ク軍警公務人員及上層知識分
 子ナルニ鑑ミ、更ニ城區ヨリ廣大ナル鄉村ニ轉向シ、原有組織ヲ
 基點トシテ周圍ニ擴大スルト共ニ、上層公務人員ヨリ小學教師、
 自治保甲軍人員、民衆團體人員ハ、知識人ヨリ農工生産分子ハ皆
 向シ、團ヲシテ能ク時代ノ使命ヲ負担セシメントス

地方幹部ヲ養生スベク二回ニ及ビ七十餘人ノ訓練ヲ爲シ、優秀ト
ル者ハ選抜シテ幹部及區分隊長トス

中等學校國務ノ推進、本分團工作區内各中學校、例ヘバ省立中
學校ノ如キ現在二個分隊ヲ設置シ、各校訓育方針ト配合シ青年學
生ヲシテ團ノ活動ニ參加シ團ノ領導ヲ受ケ得ル様工作ス。

2 訓練、團員ニ對シ三民主義ト領袖ニ對シ基本決議ヲ有クシムベク
前後二回ニ亘リ訓練ヲ施ス、受訓者六三一人常山、開花、遂安、
同時舉行セリ。

經常訓練、過去幹部ノ缺乏ニヨリ訓練不充分ノ爲分隊會議ノ開集
モ困難ニシテ工作推進セズ、故ニ今後分隊會議訓練方式ヲ改進ス
ル事ガ常而ノ主要課題ナリ。

一、救青年訓練、本團ノ訓練對象ハ團員ノミニ限ラズ、一般青年ニ
對スル訓練モ亦重視ス。抗戰以來失業失學青年ノ救済ヲ爲シ、工
作區ニ青年宿舍、食堂、圖書室、青年補習學校、青年服務社、青

年農場、工廠等ノ生産組織青年館クラブ等ヲ籌設シ、活動ノ場所
トシテ大量青年ヲ吸收セリ。而シテ一般青年ニ軍事政治的訓練ノ
ミナラズ生産技術ヲ授ケ勞働服務ニ參加セシム

3 宣傳服務、青年文化團體ノ組織、各種研究會、座談會、青年交宣
會、青年劇社、歌詠隊等

青年出版刊行物、衢縣青年（第一期一第四八期）、各地青年副刊
青年啓報ノ刊行、文化供應社ノ強化

ソノ他保衛大浙江運動、各種戰時宣傳

(五) 動員準備

1 三十年五月五日國民兵團、縣黨部、動員會、各鄉鎮長、鄉鎮隊附
自衛中隊長、地方紳士、機關主任人員弄八三人合同シ黨政軍民臨
時聯席會議ヲ舉行セリ。各項應變準備工作ニ就テ討論シ、應變準
備費八、〇〇〇元ヲ集メ半數ハ縣ニ半數ハ各鄉鎮ニ置ク事トシ、
動員委員會ニヨリテ募集スル事トセリ。

2 公鐵路破壞演習、國民兵團、建設科ト合同實施計劃ヲ作成ス。參加鄉鎮一五、參加人數一〇、二〇九人ナリ。

3 縣内軍事要地ノ詳細ナル調査ヲ行ヒ、落下傘部隊防禦演習（參加國民兵二、〇〇〇名四大隊一、對敵防禦部隊ノ組織訓練（衝鋒飛行場防禦ヲ中心トセルモノ）加シ一歩兵銃高射組六組一八班二一六人、突擊組三組九班一四四人、破壞組四組一一班一七六人參加）更ニ國省防禦工事ヲ實施ス。

第三節 松陽縣

一 行政機關

(一) 概説

中央訓練團黨政訓練班開學式ニ於テ訓練中蔣介石ハ曰フ「吾々ハ過去十數年來地方自治ヲ實行セザリシニヨリ、黨治ハ基礎ヲ有セズ、民主主義ハ實行サレズ、既ニ黨治ニ非ズ又民治ニ非ザル怪現象ヲ形成セリ。斯ル狀態ノ下ニアリテ一般同志ハ反省スル事ナク且地方自治ニ對シ根本的注意ナキモノノ如ク殊ニ三民主義ノ實行知ラザルモノノ如シ若シ其地方自治ニ着定セザレバ、第一社會民衆ハ組織訓練ナク政治ノ基礎ハ確立スル能ハズ、第二民衆ニ自治ノ知識能力ナク、一切ノ建設ハ推行不能ナリト。彼等ニヨレバ抗戰ノ目的ハ完全ナル領土主權ノ保持ニアリ、國家民族ノ獨立自由ヲ求メルニアル、換言スレバ三民主義實行ノ障礙ヲ排除スルニアリト。建國ハ就チ各方面ヨリ三民主義新中國ノ精神的基础ト物資的基础ヲ選定スル事ニシテ、抗戰工作ト建國

工作ハ凡テ是ニ民主主義實行ノ工作ト謂フベシ。抗戰及建國ハ國家全體ノ人力ト物カヲ動員スルヲ要シ、而シテ全體國家ノ人力ト物カ動員基礎條件ガ即チ地方自治ニ外ナラヌト然ルニ訓政時期開始以來多年ノ間題ハ、以下各級行政機構及民衆組織ガ此ノ任務遂行ノ負擔ニ堪ユザル點ニアリキ。

更ニ蔣介石ハ「推進地方自治ノ基本義」中ニ述ベテキル「我々ハ現在一般鄉鎮及保甲長ノ普邊的ニ犯シ易キ通弊ヲ考ヘ見ルニ次ノ四點ナリ第一ハ公事ニ附託シテ私腹ヲ肥ス事、第二ハ勢ヲ倚ンデ民衆ヲ壓迫スル事、第三ハ官名ヲ一借リテ私怨ヲ晴ラス事第四ハ最モ弊害大ニシテ現在一般鄉鎮長及保甲長ハ一鄉ニ於ケル政令執行ノ權ヲ握リ、徵稅兵ハスベテ彼等ノ手ヲ經テ行ハレラル事、賄賂情實ニヨリ有力者ハ出力出錢ヲ不要トシ、無力ナル貧民ニ對シテハ苛烈毫モ顧ザル不公平ヲ爲ス。以上ノ四大弊害ハ目下ノ中興鄉鎮保甲長一般ノ通弊ナリ」ト。訓政工作ノ成果不良ニ關シテハ内外ノ原因多クアラレモ、上述ノ

如ク縣各級組織並民衆組織：不健全ハ當然最モ大ナル原因ノ一ナリ此ノ如キ腐敗ナル地方組織ニ於テ尙且敗戦ニ次グ敗戦トハ云ヘ數年ニ亘リ抗戰ヲ繼續シ得タルハ、一ハ農民政治ニ對スル無關心ノ習慣ト支那ニ於ケル官僚政治ノ傳統的腐敗ト内亂ノ馴練ナル結果ニアリト愚料サルハナリ。然シ乍ラ其ニ自ラ限度アリ、虛構ノ宣傳ハ事實ノ前ニ力ヲ失フ、内部ニ於ケル民衆ノ不滿ト壓戰ノ傾向ハ歴然タルモノデアラスクテ政府ハ民國二十八年九月縣各級組織綱要ヲ公布シ、新縣制ヲ規定シ嚴ニ推行スベク令セリ。

過去ニ於ケル外國模倣ノ地方自治制ト異リ、支那數千年ノ傳統文化ヲ主シ自然ト人生環境ニ即シタル現實的良制度ナリト誇稱シ、其ノ實施辦法ニ於テハ完成期六年ヲ三ケ年ニ短縮シ強行セントス、指導者ノ意圖ト熱意ハ冒フ可キモ果シテ遂行サル、ヤ否ヤ、蔣介石ハ自ら「吾々行政人員ハ民衆ノ信任ナク爲ニ公共事業ハ推行不能ナリ」ト述ビシ居レリ。民國二十九年ニ於ケル實情ニツキ浙江省行政幹部訓練

團ノ小組討論會ニ於ケル意見ハ次ノ如シ

(一) 過去缺點ノ檢討

本省政治ハ黃主席領導ノ下ニ在リテ、年來顯著ナル進歩ヲ爲セリ。然シ尙若干ノ缺點ヲ有ス、茲ニ歸納總結セバ次ノ如シ

(イ) 民政ニ地方自治工作未ダ能ク積極的ニ推進シ得ズ、民意機構モ充實セズ、鄉鎮保甲ノ多ク尙戰亂ノ狀態ヲ維持シアリ。又戶籍ノ統一適用ヲ爲シ得ズ、以テ兵役採用ハ尙兵役調査ノ遲延ヲ來シ、教育機關ハ學齡兒童年輪調査ノ遲延ヲ致ス等々精力ト時局ト經費ヲ虛耗ス、煙毒ハ未ダ徹底盡清サレズ、警政ハ未ダ健全ナラズ、地方工作積極推進セズ、均シク之明白ノ缺點ナリ。

(ロ) 軍事ニ國民軍訓練工作未ダ積極推進セズ自衛隊政訓工作モ不充實ニシテ、積極面ニ於テ、抗敵自衛壘ノ建立不能、消極面ニ於テハ後方奸謀盜匪ノ肅清不能ナリ。

(ハ) 經濟ニ最大缺點ハ對敵經濟封鎖工作ノ不充分ニシテ以テ物價ヲ抑平

シ奸商ヲ制禁スル能ハズノ社會經濟ハ混亂不安ノ局面ヲ呈現ス。其他農工業生産ノ不足ハ自給スル能ハズ、糧食ト貿易ノ管理嚴密ヲ缺キ亦動搖ノ原因ヲ爲ス。

(ニ) 教育文化ニ年來物價高騰ノ影響ヲ受ケ、教師ノ待遇薄キニ過ギ、教師ノ缺乏甚ダシ、地方各縣多クハ未ダ省定方針ニ按照シテ國民教育ノ推廣ニ意ヲ注ガス反ツテ戰時中學ノ畸形的勃興スルアリ、ソノ他教育經費ノ充裕ノ學產學款ノ整理未ダ適切ナラザル等亦主要シ缺點ヲ爲ス。

(ホ) 財政ニ徵集制度不統一ニシテ、收支平衡セズ各縣稅務ハ未ダ情實ヲ打破スル能ハズ、整理ハ坐折シ、徵稅人員ノ管理嚴格ヲ缺ク等々明白ナル缺點ナリ。

(ヘ) 人事ニ從來ノ人事制度ハ健全ナラズ、考查工作未ダ適切ニ推進セズ公務員ノ生活保障ナク不安定ナリ、之ニ因ツテ幹部缺乏シ、人材ハ什器ヨリ離レ什器ハ人材ヨリ離レル現象ハ免レ難キ所ナリ。

(1) 其ノ他黨政變方尙總調合作ヲ缺キ、管教養衛相輔ケ前進スル能ハズ。同一事項ニ付テ二個以上ノ機關並存ジ責任ノ所在明ナラズ、「文書政治」、「科員政治」尙完全ニ打破サレズ、所謂政治攻勢ヲ僅カニ政治上ノスロイガンニ過ギズ、凡テ之等ノ事項ハ總ク改革ヲ待ツベキナリト。

浙江省主席黃紹竑ハ過去ノ一般工作ニ對スル檢討ノ中テ（東南日報三十年十月十三日）述ベテ曰ク
吾々抗戰四ヶ年來ノ本省行政人員ノ工作精神ヲ比較觀察スルニ、民國二十七年ヨリ二十八年ニ至ル時期ニ於テ最も緊張シ、二十八年以後ハ已ニ日ニ低落ノ趨勢ニ在ルヲ知ル。何ヲ以テ期カル状態ヲ形成セル方、吾々ハ長期戰爭ガ精神ヲ困憊セシメタルト言フヲ憚ラヌ、然シ一般人員ガ苟安愉情ニ習ヒタルハ確カニ一大病根ナリ、性ハリキ今日遊樂區内工作幹部ノ缺乏ヲ感ゼルニ至ラントハ。即後方工作人員ノ服務精神ト熱情ハ日ニ低落ノ途ヲ辿レリ、若シ今日ニシテ

糾正ヲ加ヘザレバ眞ニ前途憂フルニ堪ヘザルナリ。

一時ノ安キヲ貪リ、表面ヲ繕テシテ實ルナク、戰鬪意志ノ缺乏ヲ來ス等々ノ病根ハ二十八年以後普遍的ニ表現サレ來レルモノニシテ、當ニ各級政府機關人員ノミナラズ社會一般人士亦同患ナリ。先ツ政府人員ヨリ自責スベシ、人民領導ノ他位ニアル者ニシテ領導精神ニ不足アラバ自然社會ノ趨向ニ影響ス、惡習深キヲ加ヘンニハ必然大挫敗ヲ招クニ至ラン、ト。以上希望ナキ戰爭ニ疲勞困憊セル彼等ノ状態ヲ見ルベシ。公務人員ニシテ斯クノ如シ地方自治ノ大事業ノ前途ヲ推察ニ難カラズ。

然ラバ一般民衆ハ如何ト云フニ、彼等ノ大多數ハ無知ナル農民ニシテ眞ノ民族意識ヲ有マズ、有リトセバ本能的農民族ヘノ憎惡感乃至排斥外觀念ニ根ザルモノニシテ、未ダ民族意識ト云フ可ク餘リニ原始的ナリ。民族意識ハ必然政治的表現ヲ採ルモノナリ。而シテ支那人ノ政治的無關心ト保守的實利主義ハ農民ニ於テ性格化サレ、新制度ニ

進ンテ協力スル事ハハカルベク且一文不知ノ輩ニ抗戰建國ノ理想ハ不
明白ナリ。遊撃地區ノ民衆ガ敵味方ノ觀念ニ嚴密ナラズト政府チシテ
嘆ゼシムルモ故アルナリ。

三 民 政

區鄉鎮保甲

1 區本縣ハ二十九年十一月ヨリ縣以下各級編成方案ニ照シ區鄉鎮保甲
ノ調整ヲ開始セリ。本縣ハ全縣四十二鄉鎮、三一二保ヲ城區、竹溪
古市、玉岩、靖居ノ五行政區ニ分テリ。內古市、玉岩、靖如ノ三區
ハ區署ヲ設置シ、城區竹溪ハ原有ノ聯合辦事處アリシガ二十九年十
二月廢シ、縣政府ヨリ指導員ヲキテ直接指導スル事トセリ。以上ノ
劃分ハ組織綱要ノ第二十四條一區ノ劃分ハ十五鄉鎮ヨリ三十鄉鎮
中心、玉岩ハ過去ニ於テ共產匪ノ盤居セシ處、靖居ハ交通ノ要衝ナ
ルヲ以テ特ニ省ノ許可ヲ得テ區署ヲ設立セリ。

區署ノ編成ハ 區指導員一人ハ但古市、玉岩指導員二人、事務員一人、
書記一人、區隊附一人、巡官一人、警長一人、警察八名乃至六名ニ
シテ區署ヲ設ケザル區ハ指導員二人ニテ直接指導ス。

區署ノ經費ハ二十九年度ニ於テ月支二一〇元ニシテ、經理ニ困難ヤ
ル爲三十年度八月額四一一元ニ増額セリ。但シ古市區ハ五〇二元ナ
リ。

2 鄉鎮組織編成、管教養衛合一促進ノ見地カラ鄉公所、學校、合作社

鄉村警察、國民兵隊等ノ機關ヲ總テ一處ニ設ケ合署辦公制ヲ採用ス
鄉鎮公署内部ノ組織ハ民政、管營、經濟、文化ノ四股ニ分レ、各股
主任一人ヲチキ、民政股主任ハ副鄉長之ヲ兼務シ管營股主任ハ鄉隊
附、經濟股主任ハ合作社々長、文化股主任ハ中心小學校長ト夫々兼
務スル事トシ、別ニ專任事務員、戶籍幹事各一人ヲ置ク。

經費、二十九年度本縣鄉鎮公所經費補助額八月三十餘元ノモ、僅カ
ニ二鎮ニシテ一般八月額十五元ナリキ、保長辦公費毎月六角鄉鎮公所

事務員手當月六元ノ状態ニシテ物價高騰ノ折此ノ如シ薄給ニテハ何トモ爲シ得ズ、三十年度ニ於テハ省領布ノ標準ニ照シテ三級ニテ、十保以上ノ郷鎮ハ補助月額五二元、九保以上ノモノハ補助月額四六元、六保以上ハ補助月額四三元ニ改正セリ。郷公所事務員ノ戸籍幹事ハ月額一七元乃至二〇元ヲ支給ス。

豫算制度ノ施行、郷鎮ノ財政基礎ヲ鞏固ニシ、郷鎮自治事業ヲ發展セシムル爲、郷鎮ノ有スル收入支出ヲバ三十年度ヨリ單獨豫算ノ編成ヲ實行セリ。郷鎮ノ所ハ人員少ク、専任會計人員モナク豫算編成ニ困却ス、仍テ實例見本ヲ作成ノ上各郷鎮長ヲ召集シテ講習ヲ與ヘタリ。

郷鎮保甲長民選ノ實施、綱要ノ規定ニ照シ甲長ハ戸長ノ推薦ニヨリ保長ハ保民大會ノ選舉ニヨリ、郷鎮長ハ郷鎮民代表者會末ダソノ能ヲ發揮セザルニヨリ保甲長ニヨリ選出セリ。全縣甲長選出ハ三十年一月ヨリ開始、各區郷鎮長ヲ督促シ、戸長

議ヲ召シ甲長ヲ選出シ二月末全部完了セリ

保長ノ選出ハ三月十五日ヨリ四月十五日迄ニ全縣夫々保民大會ヲ召開シ、正副保長ヲ選舉スル旨ナリシモ、食糧不足甚ダレリ保務ハ一日モ停頓スル能ハズ八月末迄ニ延期全部完了ス。

郷鎮長ノ選舉ハ保長ノ選舉完了後引續イテ實施、八月五日ヨリ九月五日迄ニ夫々郷保甲長會議ヲ召集、郷鎮長及副長候補各三人ヲ選出シ縣委員會ニ呈報シ決定セリ。

郷鎮財産保管委員會ノ成立、各郷鎮ノ公金財産及各額收入ハ素統一保管ノ組織ナク、僅カニ一二人ニヨツテ取扱ハレ、郷鎮財政ノ公債ヲ爲サズ、從ツテ公金費消ノ弊ヲ免レズ故ニ郷鎮財政整理シ土豪劣紳ノ喰ヒ物トナルヲ防グ爲、綱要四十三條ノ規定ニ從ヒ財産保管委員會ヲ組織シ、郷鎮財政保管、整理、徵收整理等ノ責任ヲトルトス。本年四月省ノ認可ヲ經テ各郷鎮ニ成立シ、各郷公款公産ノ徹底的調査ヲ行ヒ訓書ヲ作成ス。

右實施ニ當リ郷鎮財産ヲ少數土豪ノ占有セル所ニ於テハ委員トノ
ニ相當閣着ヲ起サルアリ又公有財産ハ己ニ横領サレ而モソノ證據ナ
ク、或ハ明ニ横領サレクルチ知ルト雖時期己ニ久シキヲ解テ回數不
能ナルモノ等アリ。

戸口管制ノ強化、漢奸匪類ヲ肅清シ、地方ノ安寧ヲ確保スル爲、平
時ニ於テ戸口ノ管制ヲ特別ニ重視スル事。各郷ハ專任戸籍幹事ヲ
設置スル外、平時検査ヲ嚴重ニシ人民尋常證及運帶保證書ノ實施ヲ
密ニ爲ス。

平時検査、甲長八月一回、戸別ニ人口調査保長八月ヲ定メテ複査
一回、各郷戸籍幹事八月ヲ定メ保別ニ検査一回、區署ハ二ヶ月ニ
一回各郷ニ到リ抽查ス。縣政府ハ今々年ニ一度保員ヲ派遣シテ各
郷ヲ抽查シ、各層級ヲ督導シテ弛懈ヤシメズ、ト規定ス。人民遷徙
證ノ實施ハ二十九年ノ全省專員縣長會議ノ決議案ニヨリ遷徙證
式、新戸登記表ヲ定メ各郷ニ令シテ試行ヤリ。運帶保證書ハ郷

調整後、區域ノ變動ニヨリ。過去ニ於テ發行セルモノハ既に無効
トシ、三十年七月ヨリ各郷鎮ニ令シテ新ニ定メシメ以テ好匪ノ
伏等ヲ防グニ資ス。

行政人員幹部訓練所、縣以下各幹部ノ訓練ノ爲省令ニヨリ役立ス、
一月籌備開始二月成立ス、三月ヨリ訓練ヲ開始ヤリ。第一期ハ戸籍
幹事、合作社經理關係人員、第二期ハ甲長、第三期ハ國民學校々長
以上三期ノ訓練人員計八四四人ナリ、第四期ヨリ保長トシ十月五日
開始ヤリ。三十一年度ハ同ジク保甲長七〇〇人ヲ訓練スベク豫定シ
豫算五、九四〇元ヲ計上ヤリ。

郷鎮保公所經費、規定標準額比較表

郷鎮保公所	應領最高額	規定最高額	比較
三九年	〃	〃	〃
三八年	一角	八角	減
三九年	〃	一角	減
三八年	二〇元	一四	減
三九年	二〇元	一七	減

行政經費	自治經費	省補助費(行政)	(自治)
二七年	〃	〃	〃
二八年	一〇、九七四	五、一七三	八、四〇〇
二九年	二九、二六〇	二五、三三三	一九、四四〇
三〇年	二九、二六〇	〃	二、四〇〇
三一年	二六、一〇〇	一七、九七三	一九、九〇〇

松陽縣郷鎮長學歷(三一年)
 中學一六、師範三、小學二六、私塾三、其他五

二、教育

〔師資訓練〕

重慶政權ハ過去教育ノ缺點ヲ外國教育制度ノ機械的模倣ト各教育部門ノ孤立的活動ニアリトシ、中國傳來ノ文化ヲ重ンジ自然的文化的國情ニ即シタル教育ヲ爲サントセルハ正鵠ヲ得タリト謂フベシ。新縣制ノ意圖スル管教養衛ノ合一ハ「教學ヲ本トシテ合一ヲ爲ス」原理トナス。コトニ於テ新縣制下ノ各種建設工作ノ教育的工作ニ非ルナク、建設過程（教育的過程）ニ非ザルナシ。此ノ認識ヲ基キ國民教育ノ徹底的普及ヲ圖ラントス。國民教育實施綱領ノ規定ニ依レバ「國民教育ノ普及ハ五々年ヲ期トシ、自民國二十九年八月、至三十四年七月、入學兒童（學齡兒童）ノ百分ノ九十以上ニ達シメ、入學民衆ハ失學民衆ノ百分ノ六十以上ニ達シムベシ」ト。本省二十九年度ノ見積ニヨレバ、失學兒童數ハ尙百二十餘萬、失學成年ハ八二五萬人ナリ。部定

ノ標準ニ準ズレバ本省ノ國民教育完成ノ日一〇八萬人入學兒童ト四九五萬ノ入學民衆ヲ有シ、一教師平均三〇人ノ受持トシ尙教師ノ必要數二〇萬人ナリ。但シ同年度ノ教師推定ハ公私立小學教職員共計二九、六九七人、若シ私塾教師及民衆學校教員ヲ合スレバ三八、〇〇七人ニシテ其ノ中師範教育ヲ受ケシ者百分ノ二〇ニ至ラズ、小學卒業者ハ百分ノ四〇ヲ占ム、數量ノ不足質ノ劣惡化ハ驚ク可キモノナリ尙近年中、國民教育校數ノ擴充ト合格教師ノ養成ニ就テ言ヘバ師範卒業(含簡易師範)

二七年度 四三四人 二八年度 四二九人 二九年度 七九一人
三十年第一學期 二二六人 計一八八〇人
而シテ國民學校ト中心學校ノ數ハ
二九年下半年 七、四四四校 三〇年度 八、三二二校 (增八七八校)
三一年度増設 國民學校 三、〇〇〇校 中心學校五〇〇校

□ 文盲肅清

文盲掃除ニ關シテハ民國二十七年ノ各級學校兼辦社會教育辦法ノ公布ニヨリ政府ハ相當力ヲ注ギタルニ拘ラズ、其ノ效果ハ現レズ、生徒募集ハ困難ニ陥レリ、其ノ主要ナル原因ヲ求ムレバ第一ハ行政責任者ノ不熱心ニシテ形式的ニ入學民衆ノ數ヲ報告シテ糊塗シキルニ過ギズ第二ハ基層行政ノ不健全ニシテ何等一定ノ方針モナク實施シ居リ而モ甲長等ニ至ツテハ自身文字ヲ知ラマ者多數アル狀態ナリ第三ハ知識分子ノ不熱心ナリ一部學生ヲ除キ民衆學校ニ關係シ居ル者ハ幾何モナシ。斯ノ如キ狀態ナレバ如何ニ新縣制ヲ實施シ國民教育ニ重點ヲ置クト雖モ速急ニ革マルベクモナシ、彼等ノ仕事タルヤ極端ニ言ヘバ法令ノ制定及統計ノ作成ト言フヲ得ベク形式的ニ入學者數、學校數ヲ擡ヘテ事足レリトス、而シテ其ノ數字ハ勿論不正確ニ

シテ三度調査シテ三種ノ數字ヲ得ル状態ナリ。從ツテ之等ノ統計ハ單ニ大体ノ傾向ヲ知ルニスラ迷フ事アリ文盲統計ハ數字ノ不正確ヲ暫ク措クトスルモ識字、不識字ノ區別亦困難ニシテ單ニ字ヲ識ルト言フモ日常ノ用ヲ爲サズバ不識字ト撰ブ所ナシ、支那文字ノ複雜性ヲ識字ノ困難ヲ數倍シ、農民生活環境ハ之ニ自乘サルベシ、農民ノ側ニ於ケル困難ハ更ニ多忙ニシテ暇ナク且貧乏ニシテ費用ナキ事ナリ從ツテ彼等ガ入學ヲ欲セザルハ當然ニシテ強迫入學辦法ニヨリテ罰金ヲ課ストモ果シテ效アルヤ否ヤ、已ニ有錢者ハ替玉ヲ使ツテ入學セシメル如キ事情モアリ文盲教育ノ困難ヲ推シテ知ル可キナリ即合格教員ノ養成ト新增設校ノ比額ノ差ハ甚ダシク、今後積極的ニ師範教育ノ推行ヲ爲サザレバ本省ノ國民教育ハ小學卒業生ノ手ニ委ネラル、ノミナラズ、廣大ノ失學兒童並成年者ハ將來永遠ニ國民教育ノ圏外ニ置カル、ニ至ラン。

□ 中小學校教育ノ改進

1 中小學教員待遇改善

二十九年年度本縣初級中學教員ハ一時間ノ時間給四角五分、小學校教員日俸一八元ナリ三十年年度ニ於テハ初中學教員ハ一時間ノ實際支給額八角、小學校教員資格ニ應ジ最高五〇元最低二四元トシ且本學期ヨリ中小學均シク學米制ヲ推行ス。

然シ乍ラ鄉村ノ學校ニ於テハ經費ノ不足ニヨリ未ダ縣規定ノ標準標準ニ達セザルモノアリ學米モ往々ニシテ停止スル状態ナリ

2 小學教師ノ質的向上

本縣ハ以前各小學經費困難ノ爲教師ノ缺乏ヲ來シタルニヨリ高級小學卒業生ヲ以テ教師ニ充任スルモノ全縣總數ノ約百分ノ四十三ヲ占ム、三十年年度ヨリ稍小學經費ノ増加ニヨリ合格ノ教師ヲ配シ初中以上學校ノ卒業生ニ非レバ代用教員ニ充ツルヲ許サザル事ヲ規定ス

一、五%	五、六%	三、五%	二五、七%	二九、四%	二六、一%	七、八%	一〇〇%
六	一八	一一	五〇	九四	一一五	二五	三一九
卒業修業	卒業修業	卒業修業	卒業修業	卒業修業	卒業修業		
以上	高師又ハ 舊制中學	高中又ハ 舊制中學	普通師範 又ハ簡易 師範	初級中學	小學	其ノ他	計

3 小學校長ノ訓練

三十年暑期本縣地方行政人員幹部訓練所ニヨリテ小學校長訓練ヲ設ケ訓練ヲ爲ス、期間七月十五日ヨリ始メ八月十三日ニ終了ナリ、受訓校長五八人ナリ

4 學校財産ノ整理

本縣各小學經常費ハ田畝收入ヲ以テ主要ナルモノトス、然ルニ其所有

田畝ハ久シキ以前ヨリ人事ノ更替等ニヨリ管理ヲ失ヒ或ハ侵占サレタルモノ相當ニ上ル状態ナレバ全縣各小學ニ令シ夫々明確ニ調査シテ調査書冊ヲ作り刊行トシメ整理ニ資ス、尙少數ノ學校ハ印刷費ナク未嘗施ノ状態ナリ。

松陽縣學齡兒童統計 (一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十)

級年	松陽縣		學齡		兒童		統計	
	總計	未入學者	現在入學者	一年以上者	初小卒業者	高小卒業者	合計	未入學者
滿六才	六八八八	三、三〇七	三、五八一	一、三三七	一		六	
滿七才	二、九九五	二、〇三三	八八〇	七六	五		一一	
滿八才	三、〇四六	一九三六	九五四	二二五	二四		二七	
滿九才	三、九九七	二、八四四	九七一	一三三	三九		四一	
滿十才	三、八〇四	二、六四七	九三一	一六三	四〇		一九	
滿十一才	三、五八一	二、五三四	七八一	一五四	八一		二二	
滿十二才	三、六八一	二、三三三	二、九七九	一七八	九二		二六	
合計	三、八八八	三、〇三三	三、五八一	一、三三七	一、三三七	一、三三七	一、三三七	一、三三七

松陽縣

學校教育

縣立	縣立	縣立	縣立	縣立
文廟小學	朱子廟中心小學	毓芳中心小學	時初中學生補習學校補助費	立初中
六一四七	八一二	一六〇九四	二〇〇〇	二四二六四
四二一一	六五三三	一一三三八	六〇〇	一八〇八一

才〇五至才三十白

識字		不識字		學年別
男	女	男	女	
七、一三七	五、八一〇	一、〇九四	四、五八八	第一學年
七、〇九七	六、〇六六	八四六	四、八九六	第二學年
三、九一七	三、八八七	一、三四	三、〇〇三	第三學年
四、九五四	四、六〇六	三六一	三、六四七	第四學年
五、一〇五	四、八六六	三三八	三、八八三	第五學年
三、八三〇	三、五三三	三、七五三	三、七〇一	總計
五、三三三		一、九七七〇		

松陽縣失字民象統計（一八八一年）

本陽三縣一十一年教育文化費概算

合	各項教育費										社會教育費		國民教育費		學校教育經費																								
	償還省教育儲備金	縣立教育機關職員津貼	小學校及產管理委員會	師資訓練校定登記費	刊物購印費	鈴記刊費	補政費	教育人員獎勵及養元金	兒童理事會經費	輔導經費及集會經費	講演場建築費	縣立民衆教育館	社會教育補助費	縣立圖書館	視導經費	保國民學校	鄉鎮中心學校補助	縣立簡易師範	縣立古市中心小學	縣立文廟小學	縣立朱子廟中心小學	縣立毓芳中心小學	縣立初中	縣立初	縣立中														
計	一一三〇七九		六〇〇	一三〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	八〇〇	一〇〇〇	三六〇	一四〇〇	三五〇〇	二〇〇〇	六三三九		一五九〇	一三六三六	七五九一		二四〇〇	一〇一三六	六一四七	八一	一六〇九四	二〇〇〇	二四二六四	四九五四	五二〇五	三八三〇五	二五三三五	四八六	四六〇六	三八八七	六〇六	五八〇	七〇九七	七三三七	五三三三〇		
	九一三四五	八八八		七九三	六〇〇	一五〇	二〇〇	一〇〇〇	三六〇	三八〇		六八三	三五六九		一、一九〇	一、二六五四	七三〇四	二〇〇〇	二四〇〇	七、八三二	四、二一一	六、五三三	一、二、二五八	六〇〇	一、八〇八二														

才〇五	
識	不
女	男
七、一三七	五、八一〇
七、〇九七	六、〇〇六
三、九一七	三、八八七
四、九五四	四、六〇六
五、一〇五	四、八六
三八三〇五	二五三三五
	五三三三〇

裏面白紙
めくれず

〔〕衛生行政

1、行政系統内衛生組織ノ沿革

本縣ハ元々縣衛生施設ナク防疫事業等ハ救済組織ニテ行フ。

廿九年、浙江省衛生處ノ獨立ト共ニ直屬ノ松陽衛生院ヲ設ク。

三十年、縣衛生院成立、省衛生院ハ縣辨巡迴醫療防疫隊ニ改組

次テ臨時防疫隊ニ隊ニ改編サレ、衛縣、慶元ニ赴ク。

既ニ古市衛生所ノ設立アリ、縣衛生院設立ト共ニ古市衛生分院トナル。

二十年四月浙東戰事ヲ避ケテ、方岩ノ衛生處ハ松陽ニ移リ、又

麗水ヨリ世雅ニ移レル衛生試験所ハ更ニ本縣端居口ニ移レリ。
 省會衛生事務所ハ方岩退出ノ途上臨時衛生工作站五站ヲ編成シ
 ソノ一部ハ松陽城區、古市、端居口等ニ駐派サル。該站ハ今作
 戦前迄松陽衛生工作站トシテ本縣ニ止レリ。

2、經費

	廿六年度	廿七年度	廿八年度	廿九年度	卅年度	卅一年度
衛生院費	1	1	1	1	1,350元	2,030元
防疫費	1	1	1	1	300	500
清道費	1	1	1	420	335	280
衛生教育費	1	1	1	1	100	1
衛生所(分)補助	1	1	1	700	180	240
計	2,580元	2,780元	2,560元	1,120	1,905元	2,600元
縣地方歲出總計ニ對スル割合	0.30%	0.27%	0.21%	0.58%		0.40%

3、事業概況

(1) 醫療 醫師、藥械ノ不足著シ。縣衛生院ハ院長ノ他ニ正規ノ醫師ナシ。藥械ノ統制ノタメ省衛生處附屬機關ハ藥品月結請領報告ヲ呈出セシメラレ居リシガ松陽衛生院二十九年八月分ヨリマラリア藥ノ出入ヲ摘録スレバ次ノ如シ。

藥名	原有數量	領用	消耗	實存
Atebrin	0	0	0	0
Plasmuquinin Amp	11支	0	1支	1支
Quinin bisulphas	0	0	2000's	1600's
0.325 Tab	1000's	0	500's	500's
0.15 Tab	0	0	0	0
Quinin hydrochlorid Amp	11箱	0	4 Amp	15X8 Amp

漢方藥ノ代用提唱サレ衛生院貯備藥中ニモ萬金油、八卦丹等ノ名アリ
 大東亞戰爭以後ノ不足ハ更ニ甚シク、三十一年初頭縣衛生院ハ藥瓶ノ

補給ニキテ舊瓶ノ買上ゲヲ行ヘリ

(2) 防疫：：種痘（縣救濟院及ビ衛生院擔當）コレラ・ワクチン及コレラ・チフス混合ワクチンノ注射。

(3) 保健工作：：産婦ノ指導、健康検査、民衆体育場ノ設置（壯丁或ハ各種幹部訓練班員健康検査ノ成績芳シカラザルニ鑑ミ近時國民保健運動ヲ各地ニ於テ奨勵ス）

(4) 環境衛生改良：：飲用井塘河流ノ検驗、飲食物監理（茶館、餚舖ノ監督、病毒肉類ノ販賣禁止）道路掃除、溝渠ノ修理疏通、猪畜放飼ノ取締、便所ノ取締、住戸清潔等等ノ繰テ初步的工作ノ範圍ヲ出デズ

(5) 衛生教育及宣傳：：衛生工作人員訓練（例ヘバ三十年古市省立湘湖師範學校ニ於ケル衛生處主催産婦訓練二十一年第二輯醫院ニ於ケル護士訓練ノ如シ）

(6) 烟毒禁止：：警政部ノ擔當、本縣ニ於ケル烟苗種裁ノ發見ハ近年ナシ
紅丸製運犯廿六年ニ一名其後ナシ。全年吸食犯販賣犯若干アリ其後ナシ。

三、醫藥施設及人員

醫務人員一七一（廿八年調査）廿七年縣政概況ニヨレバ西醫二、己領證中醫一三、藥劑士ナシ。廿九年統計ニテハ醫師二、無資格醫業従事者一、

私立醫院二、（病床數六二、毎月診療數二七九八、毎月入院數二二三）（二十九年統計）

西藥舖二、中藥舖七五（城鎮三四、古市二〇、靖居一六、玉岩五）（二十七年統計）

〔註〕廿七年軍政部第七五後方醫院及ビ浙江省第十七臨時補助醫院本縣ニ移駐ス。今作戰當時迄後方醫院ハ南石倉源ニアリ、轉助醫院ハ浙江省第三補助醫院トシテ活動タルモノノ如シ。本縣ノ私立醫院ハ一ハ瑞西人宣教師ニヨリ一ハ米國人神父ニヨ

四、抗戦力ヲ主体トセル軍政黨ノ動向

1 國民黨ノ轉向

縣以下各級組織網要ト同時ニ、黨政關係調整辦法ヲ制定シ縣各級組織ト黨組織トヲ相配合セリ。之ニ依リテ彼等ノ意識スル所ハ即チ政府及民衆ニ對スル直接指導監督ヲ放棄シ、黨個人又ハ黨ヲ運用シ當該機關團體ノ核心ニ居リテ領導ヲ爲スニアリ。彼ノ口シアソウニト政府ト共產黨ノ關係ニ準エテ、民主々義形式ノ下ニ強力ナル黨獨裁ヲ打建テントスルニアリ。之國民黨ノ一大轉向ト言ハザルベカラズ。過去ニ於ケル黨ハ知識分子ノ黨ニシテ民衆ヨリ浮上レル組織ナリキ、抗戦五ヶ年ノ經驗ニヨリ彼等ハ知識分子ノ能力ノ限界ニ夾レル事ヲ認識シタルナラン。而シテ基層民衆即チ生産階級ヲ訓練シ之ヲ獲得シ、此ノ中ニ根ヲ下スニ非ズンバ到底抗戦繼續ノ不可能ヲ知ルニ至レリ、斯クテ城廓ヨリ廣大ナル鄉村ヘ公務員ヨリ生産大衆ヘト黨ノ大衆化ヲ圖リツツアリ。斯クテ鄉村ヘノ足場トシテ先ヅ小學校教師ノ獲得ニ力ヲ注ギツツアリ。松陽縣黨部モ亦例外ヲ爲サズ

2 縣黨部ハ全縣ノ黨務ヲ總轄シニ、六〇〇ノ黨員ト一四〇、〇〇〇ノ民衆ヲ領導シ組織訓練ノ重任ニ當リツツアリ。工作ノ進行ニ對シテハ即チ毎週月曜工作討論會ヲ舉行シ實施事項ヲ決定、毎週土曜工作檢討會ヲ舉行シ工作ノ效果ヲ檢査ス。黨員ノ教育ニ對シテハ每週讀書會、時事研究會ヲ行ヒテ學識技術、自主的能力ノ増進ヲ圖リ身心ノ鍛練ニハ健身体操ヲ爲シテ健全ノ精神ト身體ヲ養フ、人事ニ關シテハ每週檢察シ、月統計ヲ按ジテ警告ス、工作ノ分配ハ集体ヲ以テ運用シ個人ニ責任ヲ負ハシム、組織ヲ健全ニ發展セシメ民衆訓練組織ヲ領導シ、黨員ヲ勵マシテ黨務工作ニ從事シ、上下密切ノ連繫ヲ保チ黨務ノ發展ヲ圖リ居レリ。

3 下級組織

(1) 區域組織

區黨部ハ區署設立ノ地方ニ一律ニ設置セントス
現在玉岩區黨部ハ已ニ籌備ニ着手シ尙古市鎮居兩區黨部モ亦組織準備中ナリ

- (ロ) 區分部全縣四二鄉鎮ニ五八ヶ所ノ區分部ヲ設ク、每鄉區分部ヲ設ク黨員多數ナルモノハ二或ハ三ノ區分部ヲ分設ス
- (ハ) 機關黨部ハ機關人數三〇人以上或ハ黨員人數五人以上ノ常駐機關辦公人員有ラバ機關黨部ヲ設ク、本縣已ニ機關黨部ヲ設立セルモノ、縣政府、縣黨部、稅務局、農業改進所等五個單位ナリ。
- (ニ) 學校黨部ハ凡ソ黨員五人以上アラバ學校分部ヲ設立ス、已ニ設立セルモノ松陽中、戰時中、化鎮、南鎮、壽年古市等六ヶ分部アリ。五人ニ滿タザル學校ハ單獨ニ小組ヲ編成ス。
- (ホ) 小組ハ保甲ヲ單位トシテ配合ス、小組ハ保毎ニ一組全縣計三一二保三一二組ニ分ツ

松陽縣下級黨部組織一覽

名稱	民廿七年	廿八年	廿九年	卅年
區黨部	〇	〇	〇	一
區分部	二二	三三	六五	五八
學校黨部	〇	〇	六	六
機關黨部	〇	〇	一	五
小組	一〇九	二六八	三一二	三一二
黨員總數	六五八人	一六三一人	二四三七人	二九九五人

四區分部及黨員活動ノ督導

(1) 區分部ヲ督導シ少クトモ永久事業一種ヲ(例ヘバ社會服務處民衆學校ノ如キ)經營シム、本部ハ三期ニ分ケ之ヲ督導、第一期ハ城區、各學校分部及區域區分部ト古市區分部ヲ指定シ民衆學校一校ヲ經營セシム期間ニケ月、九月一日ト十一月末、實施セラル

ノ一四區分ニ上ル第二期ハ山谷地區ノ區分部ヲ督導シテ時事講演ヲ開カシム本部編輯發行ノ松陽民報ヲ送リ宣傳資料トス。

第三期ハ無力ニシテ民校、時事講座開設後不可能ノ區分部ノ爲社會服務所ヲ設ケ出征軍人家族ニ代リテ耕作收穫ヲ爲シ醫療救護等ノ業務ヲ中心工作ト爲ス

(2) 黨員工作隊ノ組織 各區分部ヲシテ民衆教育、宣傳調査、勞働保甲、合作、勸募、慰勞等八隊ヲ選擇組織シメ三ヶ月毎ニ工作隊會議ヲ召集工作對論ヲナス

(3) 職業黨員座談會ノ召集 職業黨員ノ生活、工作情況ヲ明瞭ナラシメ、職業中黨力發展ノ研究ノ爲座談會ヲ開催シ、四月農民黨員座談會、五月商業黨員、六月工人黨員、七月婦女黨員、八月教育界黨員、座談會施行以來頗ル效果ヲ見、黨部科股長秘書等出席指導ナリ。

(三) 全縣書記聯席會議召集、三十年一月及七月舉行、過去工作ノ檢討ト

今後方針ノ決定ヲ爲ス、徐書記長出席指導ス。

黨籍ノ清理、各所屬ニ令シテ黨員ノ區分部工作ニ參加ヲ嚴重勵行

セシ、毎月報告表ヲ徵ス、又中央規定ノ黨員名簿ヲ作成セシ、提出セシム

(四) 新黨員ノ募集、省定三十年度新黨員獲得數三〇〇名、各區分部現

有黨員數ニ應ジ分配督辦ス、第一期第二期ニ分チ本年獲得トシ數

計四〇〇名ニ上ル

(五) 黨員訓練、集体訓練十一月開始期間一週間參加人員一〇〇人、巡

迴訓練九月巡迴訓練隊ヲ組織玉岩區各區分部ヲ訓練、毎回二日乃

至三日間、受訓七ヶ分部一四〇人

小組編成ト訓練、本年(三十年)五月小組ヲ調整三一二組トシ總

保機構ニ配シ組織ス、一ヶ月二回小組會議ヲ開催工作研究討論ヲ

ス、當地舉行優秀ノ黨員ヲ指導者トシ黨員ノ知識水準ニ即シ問題

ヲ提出ス

(六) 區分部執行委員聯席會議、舉行、三十年ノ八、九月ニ亘リ分區基

行、下級黨部中心工作ノ商討討論及下級幹部人員ノ連絡ノ見地カ

ラ過去工作ノ檢討、今後工作方針ノ確定ヲ爲ス。

(七) 黨務調整人員ノ派遣、本縣ハ山嶺僻地ニシテ人民知識低ク特ニ玉岩

區ヲ最トナシ邊境ニシテ交通不便時ニ奸黨滲入活動甚シク、黨員

亦奸黨ノ誘惑ヲ受ク、之ヲ調整、組織加強ノ爲九月組織幹事及民

衆運動輔導員ヲ派シ三ヶ月ニシテ區分部組織ヲ整理シ新黨員一二

〇人ヲ獲得、情報網ヲ佈置シテ奸黨(共產)活動ヲ防止シ奸黨分

子八名ヲ捕フ、日黨改責任者聯席會議ヲ舉行シ小組組織ヲ整へ訓練

ヲ強化ス

松陽縣黨員職業比較 (三十年十一月)

農	一七七一	工	七二
商	一七一	黨務	八
公務	一六五	教育	三七四
學生	七一	社會服務	四九
自由職業	一一	其他	二三

以上ヲ見レバ農民運動的ニ多ク、教育之ニ次グ之最近ノ一時的傾向ニシテ黨ノ大衆化、城廓ヨリ農村ヘタ目指シテ變ハ死モ角形式的人數ヲ揃エタルニ過ギザルベシ

5 宣傳

彼等ノ舉行セル宣傳工作ヲ列舉スレバ、對敵偽及薄清漢奸宣傳

反共宣傳ノ展開

各鄉鎮下屬組織宣傳機構ノ健全化

宣傳委員會十月成立、黨書記長主任委員タリ

各區分部宣傳宣傳中心工作實施辦法ノ擬定

毎月宣傳隊經費ヲ縣黨部ヨリ補助ス

黨員黨義書籍研讀ヲ嚴定

學術時事講演會ノ舉行

中學生暑期宣傳工作隊ノ組織

夏季衛生、兵役、肅奸、節約儲蓄、新生活運動、國民精神練動員等

ノ宣傳ヲナヤリ(八月二十日迄)

各種記念集會ノ舉行

永久標語看板ノ裝設

松陽民報業務ノ發展擴張

文化服務社業務ノ擴充

民衆運動

農民團體ノ改組、新縣制ニ即應シ各鄉農會ノ改組シテ四十二團體ト爲シ、農業推行ノ見地ヨリ十月縣農業推行所ト留同シ示範農會ノ設立ヲ計ル

工人團體 本縣工會ノ松陽縣總工會外計十二團體アリ、各工會ニ職員ヲ有シ黨活動ヲナス、更ニ油車業職工會、鹽莊烟廠女子職工會（二八八一ノ組織ヲ開始ス

教育團體本縣教育會員ノ大多數ハ小學教員ニシテ召集困難ナリ、工作亦未ダ開展セズ區教育會ノ組織セルモノ古市外五個、抗戰宣傳、勸募一元獻採運動等進行セリ、縣婦女會ノ組織ヲ健全化シ、婦女分會ノ籌設ヲ計ル現有分會古市

竹溪玉岩ノ三分會六〇名ナリシモ新ニ分會ヲ設ケ黨員ヲ獲寫スベク

計畫、ソノ他同業會、同鄉會、學生自治會、同學會等凡ユル團體内

ニ黨員ヲ配置シ黨活動ヲ展開セントス

各團體聯誼會ハ省黨部、省政府、省民推會、省婦女會ノ代表者指導者ヲ招待、省政府各機關ノ松陽遷移ヲ歡迎シ民衆運動ニ對スル意見ヲ交換セリ一八日一抗戰期民衆運動ノ特殊任務ハ

一如何ニ民衆ヲ動員シ有錢出錢有力出力ヲナサシムルカ

二如何ニシテ難民及失業民衆ヲ救済スベキカ

三如何ニシテ反動漢奸ノ肅清ヲ爲スカ

四軍民合作抗戰力量增加等

ニシテ、民衆團體當面ノ中心工作ハ

一國民精神總動員ノ推行ニ節約運動三掃除文盲四體育衛生運動ノ

提唱五兵役宣傳運動六傷兵及出征將兵家族ノ慰問七政府ニ協助シ

テ地方自治推行八會員ヲ入黨セシムル等ト結論ス

新生活運動分會ノ組織新運事業發展ノ爲縣新生治促進會以下已設ノ古市分會ヲ除キ各區分會ヲ設立トシ、六月玉岩、靖居ニ黨員ヲ派遣シ新生活運動促進分會ヲ設立ス
夏季衛生運動本部ハ疫病發生ヲ防止シ人民健康ノ見地ヨリ二十年六月衛生運動委員會ヲ組織スルト共ニ宣傳防疫診療消毒清潔検査等各種工作隊ヲ組織シ七月七日ヨリ十四日ニ至ル一週間、夏季衛生運動宣傳週間ヲ舉行七月十六日清潔線検査ヲ實施ス、防疫消毒工作ハ生院ヨリ毎日二隊出動豫防注射ヲ施行、中醫公會、師醫支館ハ巡回診療隊ヲ共同組織シ各鄉村ニ施療ス、ソノ他捕鼠蠅辦法ノ制定流行下水溝ノ清掃等ヲ爲セリ

國民精神總動員ノ推行、各機關團體地方人士ヲ召集シ國民月會督察隊ヲ組織三十年四月二日編隊巡廻督察出發日督導目標ヲ規定

(一)期ヲ按ジテ月會ノ召集 (二)新生活運動 (三)出錢勞軍 (四)一日一粥
二飯運動 (四)國民宣誓ノ勵行。尙月會成績ノ考查ヲ爲シ激勵スル爲半年毎ニ人員ヲ派シテ調査ス

ソノ他建國儲蓄運動強化、國民體育衛生運動ノ推行、社會服務トシテハ造林生産ノ獎勵、民衆識字運動ノ推行爲民衆夜校、高小卒業補習社ヲ設立セリ

附 縣各級黨政關係調整辦法、民二八、六、第五回中央常委會通過
一、縣各級組織綱要實施後、縣以下各級黨政關係ハ本辦法ニヨリ之ヲ調整ス

二、縣各級黨政組織ノ配合ハ縣各級組織關係圖ノ規定ニ依リ其ノ保甲ト配合ノ小組ハ區分部ニ由リ所屬黨員之ヲ編組ス

三、黨員監察網ハ縣黨部監察委員會ニ直屬シ、執行部及黨員負責ノ時察ト科擧ニ對シテハ監察制度ヲ建立シ、黨員及幹部ノ活動力ヲ増進ス

四、縣以下ノ黨部ハ政府及民衆團體ニ對シ直接指導監督ノ關係ヲ發生

123

トズ、但シ同級ノ政府機關ト密切ニ聯繫シ、民衆ヲ推動シ、本黨政策ヲ實現スベシ、政府法令ヲ推行シ並黨員ヲシテ悉ク下層工作ニ參加シメ工作ニ從ヒ領導作用ヲ發生トシム

五、縣黨部書記長ハ應ニ縣政會議ニ出席スベシ並ニ縣參政會秘書ヲ兼任スルヲ得

六、縣政府教育（或ハ社會）軍事科長ハ應ニ中央訓練合格ノ黨員中ヨリ選出スベシ

七、縣黨部書記長、委員ト縣長、及ビ縣政府秘書科長ニシテ黨員タル者ハ二週間ニ一回縣黨部書記長ニヨリ秘密會議ヲ召集スベシ、若シ縣長黨員ニシテ其ノ年齢資格ニ於テ縣黨部書記長ニ過グル者ハ推シテ該會ノ主席ト爲スヲ得、會報、本週黨政事項及工作ハ勿論會議決議事件ハ黨政機關ニ分交シテ執行ス

縣長ハ應ニ黨員ヲ以テ充任スベク、非黨員ハ縣黨部ノ紹介ニヨリ入黨スベシ

八、區署ノ軍事教育主管ノ指導員及鄉鎮公所警衛股主任（或ハ幹事）ハ應ニ本省訓練ニ合格ノ黨員中ヨリ充任スベシ

九、區黨部以下、各級同等機關服務ノ黨員ハ、黨團活動ノ方ヲ以テ聯繫ヲ取ラシムベシ

十、各級政府機關服務ノ黨員ハ一律ニ黨ノ小組會議或ハ黨團會議ニ參加スベク、忌避スルヲ得ズ

十一、各級黨部、書記長ヨリ以下工作人員及黨員ハ各級政府機關ノ人員ノ任免昇降ニ對シ干涉スルヲ得ズ、違フ者ハ紀律違反ヲ以テ處置ス

十二、縣黨部以下悉ク秘密ニシテ公開スルヲ得ズ

124

口軍關係

1、兵役

イ、兵額配賦及征撥、三十年度軍管區令ニヨル配兵額ハ中央配額一
月七月分毎月九〇名、二十九年配賦額ニヨルハ八月一十二月
分毎月七〇名、地方配賦額毎月二三名、中央地方合計一、二五
六名ナリ。配賦ハ平均ヲ以テ原則ト爲シ各郷鎮甲乙兩道歸壯丁
數及戸口數ノ百分比例ニ照シ平均配賦シ保ヲ以テ單位トス。
保全年配定ヲ按分シテ四期トシ、三ヶ月毎ニ徵集ス。三十年度
徵集實額一月ヨリ十二月ニ至ル分計中央兵額數七二〇名、地方
兵額數三七〇名合計一〇九〇名。

ロ、國民兵ノ調査、省令ニ遵照シ國民兵調査ト戸口調査ヲ同時進行
ス四月十日ニ開始五月末完了ナリ、各郷ハ保ヲ單位トシ毎

蒐、甲乙級ニ分册ス、全縣統計甲級一三、一八七名、乙級六、
八六四名

免役役審査、本縣三十年度國民兵免役役審査ハ公開審査シテ
確實ヲ期スル爲省令ニ遵照シテ四月十日ヨリ開始申請期間ヲ
十日トシ四月二十日迄ニ縣郷鎮保各級組織免役役審査委員會
（保ハ保民大會ノ審査ニヨル）ヲ設立各級審査ノ衝ニ當ル最後
ノ決定ハ縣ニヨリ爲サレ免役役名簿ヲ保別ニ作成公布ス、十
月末全縣審査始メテ完了ス。全縣核定免役一五三六名、免役一
二二三人、停役四一人。

ハ、出征家族ノ優待救濟、三十年度優待會ハ兵役科ト合併シ、兵
役科長ハ優待會總幹事トナレリ。

全縣出征軍人ハ家族三千餘戸、一人宛優待金年額五元、食料

支給二〇斤 總計優待費一五、三七五元 食料六一、五〇〇斤
 ナリ。又出征壯丁ハ入營時安家費トシテ一八三〇元ヲ支給ス
 一月ヨリ十三月迄ニ支出セル安家費共計八、七四五元、ソノ
 他埋葬費、慰問費等計二六〇元、各費用合計二四、四八一元
 及六一、五〇〇斤ナリ。本縣ノ出征家族優待事業基金ハ、免
 緩役納金ノ收入ヲ以テ主タル部分トシ二十年度モ繰イテ徵集
 ス二十九年年度免緩後納金計九、四八九二元ニシテ未ダソノ半
 數ニモ足ラザル四、七四四六元ヲ徵集セルノミ、二十年度ハ
 審査後レ暫ク徵集開始ナリ。二十年度ハ省令ニヨリ優待金ノ
 徵集ヲ始メ家主ノ支出セルモノ五二五、四〇元、商人二四六
 九二元ニシテ田主ハ未ダ徵集ナズ。

附註	甲級	乙級	合計
本縣ハ禁役壯丁ナシ。本表ハ二十八年八月ノ統計ナリ。 八月以前徵集ノ甲級壯丁一四九七名、乙級壯丁四九七名ハ合マテ 松陽縣二十八年份各年次壯丁人数統計	人数	人数	人数
	一七、三〇三	八、八四八	二六、一五一
	六、五五四	三、三三五	九、七八九
	三三・八%	三七・〇%	三七・四%
免役人数	免役人数	免役人数	免役人数
一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

級別	甲	乙	丙	丁	合計
身令	一九	二〇	二一	二二	二二
人数	一、五五三	一、二六一	一、〇〇九	九八〇	九八〇
級別	甲	乙	丙	丁	合計
身令	二三	二四	二五	二六	二六
人数	九六四	一、〇二二	一、一〇一	一、〇九八	一、〇九八
級別	甲	乙	丙	丁	合計
身令	二七	二八	二九	三〇	三〇
人数	一、〇九一	一、一〇一	一、〇〇二	一、〇七二	一、〇七二
級別	甲	乙	丙	丁	合計
身令	三一	三二	三三	三四	三四
人数	一、一〇一	一、〇〇一	一、〇〇一	九二二	九二二

めくれず

團管司令ニヨリ適當地點ニ編集シテ之ヲ訓練スルヲ得

常備隊ノ入隊ハ毎月一日トシ其ノ除隊ハ月末ノ日ニ之ヲ舉行ス(訓

練期間一ヶ月)自衛隊ハ地方警備ニ備フルノ用ヲナシ、已ニ國民兵

教育ヲ受ケタル者ヲ以テ志願ニヨリ召集ス。

自衛隊ノ隊員數ハ地方需要及經濟情形ノ酌量ニヨリ之ヲ編成ス後衛

隊ハ國民兵集合訓練ノ所トナシ年次ニヨリ應ニ國民兵教育ヲ受クル

ベキ者ヲ集練ス。

後備隊ハ每期毎區少クトモ一中隊ヲ編成シ、就テ各鄉鎮ヲ巡回シ、訓練

ス。

豫備隊ハ地方服役ノ用ヲ爲シ、常備隊ハ後備隊、自衛隊及警察保安

團體ノ退伍者ニヨリ之ヲ編成ス、編成ニ定員ナシ、豫備隊ハ地方需

要ニヨリ警備、偵察。通信、交通、運輸、工務、消防、救護等ノ任

務班ニ區別組織スル事ヲ得。

國民兵團常備隊ノ訓練ハ一ヶ月ヲ以テ一期トシ、初步教育ヲ完成ス
國民兵普通訓練ハ地區ニヨリ編組シ、保ヲ以テ召集ノ單位トナシ、
各該保隊長召集ノ責ニ任ズ、毎月一日國民月會ヲ召集舉行ス
國民兵ノ集合訓練ハ年次編組ニヨリ、後備隊ニヨリ之ヲ召集ニヶ月
ヲ以テ一期トナシ、基本教育ヲ完成ス
國民兵ハ毎年定期ニ點呼香閱ヲ受ク

松陽縣國民兵團編成(二十一年)

- 團部 團長一名(縣長之ヲ兼ヌ) 外官兵二四名
- 副團長中佐一名 團附 少佐 一名
- 副官 大尉一名 軍醫 一名
- 書記 二名 政訓員 一名
- 督練員 三名 以上大尉級
- 軍需員 一名 編練股員 一名

督練員	二名以上中尉	少尉督練員	二名
准尉司書	二名	上等號兵	一名
上士文書	二名	二等炊事兵	二名
傳令兵	二名	分隊長少尉	二名
郷鎮隊隊付	四二名	下士班長	九名
後備隊中隊長大尉	一名	以上一〇名	
文書	一名	分隊長中尉	一名
上等號兵	一名	分隊長少尉	二名
自衛隊 中隊長大尉	一名	准尉特務長	一名
政治指導員中尉	一名	上士	二名
		中士	三名
		下士	六名
		上等兵	一二名
		二等兵	五八名
		一等兵	四五名

以上一三二名

3 應變準備

應變準備トシテ防空壕ヲ構築スルモ經費ノ都合ニヨリ十全ナル能ハズ三十年度原定計畫ニ從ヒ實際需要ニ即シ民工ヲ集メ簡易ナル壕二八〇餘ヲ作レリ。

救護組織ノ整備、防空會議ヲ召集シ救護業務ハ縣衛生院及駐松第二輔醫院ノ共同擔任トシ且縣防護團ハ擔架班ヲ組織シ、夫々醫院ニ配當シ其ノ運用ヲ指揮シテ共ニ救護治療任務ニ當ル。經費及ソノ他ノ關係ニテ必要藥品及救護器材ノ不足ニ惱ム。

松陽縣國民兵團三十一年度經常支出概算

一 國民兵團經費	一一、五五〇、〇〇元
二 團部經費	三五、三三、〇〇〇
三 辦公費	三六〇、〇〇〇

三 設備費 一九〇八〇
 四 特別費 五三四〇〇〇
 五 常備金 二八三三二〇
 六 主食費 四八九六〇〇
 七 士兵服裝費 二五二〇〇
 八 鄉鎮隊附生活費 一五一二〇〇〇
 九 後備隊經費 六七二〇〇
 十 自衛隊經費 六〇四二五〇〇

松陽縣武力統計表 二八年

名稱	軍警總數	步兵統數	鳥銃	步兵銃彈	鳥銃彈	手榴彈
自衛隊	一一一	一〇八	三	一四九〇四	九六	一〇〇
常備隊	四〇	一一〇	二	一〇〇〇	四〇	
城區警察署	二五	二四	二	一〇〇〇	一四〇	
古市區署	九	一〇	一	五〇〇		
玉岩區署	七	六		三一〇		
靖居區署	七	七		三五〇		
合計	二〇九	二六五	八	一九〇六四	三四六	一〇〇

第四節 廣信縣

一 行政機關ノ現況

廣信縣政府ハ昨年現職ニ就任シタル吳縣長以下職員約百名ヲ以テ廣
 内ニアリテ縣政ヲ行ヒアリタルガ我軍ノ空爆ト進攻ヲ恐レ六月上
 旬以來福建省建村縣城ニ避難シ現在縣政ハ事實上停止狀態ニアリ
 廣信縣黨部ハ黨部主任某ノ指導ノ下ニ縣政府ト行動ヲ共ニシアリ
 タルモノ、如シ、又江西省第六區行政督察專員公署ハ主任易君亮
 ガ中心トナリ縣政府ニ協力シ行政事務ニ任ジアリタリ
 附記 民國二十九年度ニ於ケル本縣歲出歲入ニ就キ各項目別ニ見レ
 バ次ノ如シ

歲出

行政費 二四、四五一
 保安費 三九、〇七八

財務費	四六六八
教育費	九六九七三
建設費	五一五六
救濟費	八一三八
衛生費	三五四九
其他費	四五三六
豫備費	二、〇〇〇
合計	四〇五五四九
歲入	
土地稅收入	七〇、一一〇
營業稅收入	四〇、四三三
土地改良物稅收入	九九七〇

公産收入	二六三五六
補助收入	二〇一八一六
其他收入	五六八五四
合計	四〇五五四九

三、社會施設特ニ教育施設ノ概要

抗戰區ニ於ケル社會施設ハ我空爆ノ戰禍ト國內財政ノ窮乏ニヨリ戰前ニ比シ遂次減退スルノ傾向アリタカ然レドモ抗戰民心ノ統一ヲ期シテ社會施設ノ指導利用ニ専ラ努メ放送局、映畫館、戲院、民衆教育館、圖書館等我軍ノ空爆下ニ尙民衆教育ノ役割ヲ果シツツアリ、放送局ノ如キハ外觀ハ農家ヲ裝ヒ内部ニハ防空壕ヲ設ケ樹木ヲ以テアンテナニ代用シ抗日宣傳放送ヲ繼續セルモノノ如シ其ノ他新聞社ハ前戰日報、東嶺日報ノ兩社アリ、民衆ヲ利用シテ印刷工場トナレリ

次ニ教育施設ヲ見ルニ縣城内ニ於テハ中等學校以上（女學校ヲ含ム）三校

國民學校（小學校）各保ニ一校又ハ二保ヲ以テ一校ヲ有ス

其他暑中休暇ヲ利用シ特別希望者ノ教育、又ハ小學校卒業後ノ補習教育及ビ教師訓練所等ヲ設ケ特別教員ヲ養成シ更ニ官公吏訓練ノタ

メ江西省教育廳ニアリテハ江西省地方行政幹部訓練團ヲ組織シ、江西省長ヲ團長ニ迎へ行政各機關、學校教員、婦人幹部等ヲ必要期間

（概ネ三ヶ月乃至五ヶ月）教育シ尙軍關係トシテハ憲兵第八團教育大隊アリテ一期ハ八月トシ初級中學卒業以上約三百名ニ對シ教育シアリタリ

三、衛生施設防疫狀況

一、傳染病流行狀況

- 1 「マラリア」最モ多ク蔓延シ「マラリア」ヲ媒介スル蚊「アノ」
フェレス」モ多數生棲スル事ヲ發見トリ
- 2 赤痢、腸「チフス」「コレラ」ハ毎年發生流行スルモノ、如シ
「ベスト」ハ近年發生トル様子ナシ
- 3 「衛生施設並ニ防疫狀況

廣信縣城ハ大部分破壊トラレテ狀況詳ナラザルモ軍醫部ノ調査、

文獻ニヨレバ概ネ次ノ如シ

- 1 廣信縣衛生院ハ縣衛生行政、防疫ノ中心タルト共ニ附屬醫院ヲ
有シ、衛生院長ハ附屬醫院長ヲ兼務シ、病床約七〇、隔離病棟
病床約三〇ヲ有シ、手術室、細菌検査室等ノ設備以外ニ衛生資
育ノ設備ヲ有シモノノ如ク、尙最近戰傷病患者ヲ收容トル機
様アリ。
- 2 軍政部第二防疫中隊上饒總隊總站ナルモノアリテ本務以外ニ防
疫ニ關スル教育設備、体力検査等ヲモ施行トル模様ナリ。

3 浙贛鐵路醫院城外ニアリタルモノノ内容ハ不明ナリ。

4 廣信東方約七軒ノ六十二都ニ軍政部第五一衛生材料倉庫アリテ、
相當多數ノ醫療器材、藥品等ヲ發見トリト言フ。

5 廣信東方約六軒ノ南十里附近民家ニ極メテ多量ノ衛生材料（主
トシテ綿）ヲ發見トリト謂フ

6 以上ノ他洋醫ニシテ個人開業トル者數人、多數ノ中醫居住トシ
モノノ如シ

以上衛生施設ノ大略ニシテ、軍醫部ト縣衛生院ガ中心トナリ、防
疫ニ當リ患者ノ隔離、消毒、豫防接種ニ從事シ、ソノ他三民主義
青年團、民衆教育館モ以上ノ機關ト強力シ青少年層、一般民衆ニ
對シ衛生思想ノ普及ニ努メ居リタルモノノ如シ

民國二十八年江西各縣衛生院所治癘疾病分類統計

法定傳染病										病名	患者(男)	患者(女)
其	水痘	麻疹	猩紅熱	流行性胸脊髓膜炎	白喉	霍亂	天花	赤痢	斑疹傷寒			
	二九八	五〇九	一九	八六	三六	六六九	二六一	四七五	八一	五六八		
	一六九	三〇七	九	五五	二二	五六四	一四二	一八二	三三	二五九		
柳花			他傳染病							病名	患者(男)	患者(女)
軟性下疳	淋菌性病	梅毒	其他	黑熱症	瘧疾	狂犬病	同歸熱	流行性腮腺炎	百日咳			
一五二	三三一	二五九	八九九	三三	三七、二〇九	一一	三三三	三六七	五〇五			
一七三	六四二	六八八	二九一	五	一四、〇〇三	三	一三七	一九七	二二九			

血及系環循				(核結非)病系			病系				
紫	貧	血	心	其	肺	枝	呼吸系	其	消化	腸	血
瘧	血	管	病	他	炎	氣	系	他	不良	寄生	炎
病	病	病	病	病	病	管	系	病	病	病	病
一八二	一〇六	三〇九	六一三	八一	四九五	三三六	一九七八	四四三	一九三二	四五	
一六	一〇八九	四九	一七九	一八〇	三六六	二〇三〇	一一六	二〇九三	一一六九	六	
病品尿泌殖生				病系經神							
不	川	五	傍	腎	其	癱	其	癩	神	頭	其
孕	經	宮	腕	炎	他	瘓	他	病	經	痛	他
病	異常	頸	炎	炎	病	病	病	病	衰弱	(特發性)	病
一五	一三六	三二二	六三八	七二四	二九八	九三	三五	一七四	二四〇	二二〇	四〇七
一五	一三六	三二二	六三八	七二四	二九八	九三	三五	一七四	二四〇	二二〇	四〇七
一五	一三六	三二二	六三八	七二四	二九八	九三	三五	一七四	二四〇	二二〇	四〇七

病眼			病膚皮				病核結			病	
可	砂	急性	其	濕	膿	癬	疥	皮膚	淋	肺	病
膜	眼	性	他	疹	瘡	症	瘡	骨	巴	及	病
炎	炎	結	病	瘡	瘡	瘡	瘡	結	腺	胸	病
一五六	六一二	四四三	二二九	九四九	五五三	四七五	二四〇	九九	核	核	病
七三四	二二二	二〇七一	七二〇	三二九	二二七	一八〇	七〇九	一八四	核	核	病
化	消	病	牙	喉	鼻	耳	其	其	其	其	其
胃	胃	口	其	齒	扁	鼻	扁	鼻	外	耳	耳
腸	腸	炎	他	槽	桃	息	桃	息	耳	疾	疾
病	病	病	病	膿	腺	肉	腺	肉	病	病	病
一五〇	八八〇	六一二	三九〇	三九六	一一九	五二九	一一四	九六	一八七	一八三	八四〇
一五〇	八八〇	六一二	三九〇	三九六	一一九	五二九	一一四	九六	一八七	一八三	八四〇
一五〇	八八〇	六一二	三九〇	三九六	一一九	五二九	一一四	九六	一八七	一八三	八四〇

外科		産科			其		
火傷 凍傷	其他	其	產褥熱	分娩異常	妊毒血病	其他	其
一〇、一五五	二、一三三	四九八七	—	—	—	—	一五二
二、九七八	九〇四	一一二四二	二二八	一六三	六六	二八一	—
三六、五八五	三六三	一〇、四七八	—	—	—	—	—
二、一〇	六〇	—	—	—	—	—	—
六六	六〇	—	—	—	—	—	—
附註		其他疾病			中毒		
總計		其	新陳代謝病	紫養鉄欠乏	其	一氧化炭	—
二、二一三、四六六		一、三六四	四九一	一、二九五	一〇一	—	—
八、二一〇		四六六	一六〇	七三六	四八	—	—

一、患者数ハ初診患者及復診患者別ニ新疾病ヲ發見セルモノノ二種ヲ合シ、毎診一回記録シテ計入ス。

二、本表ハ江西南全省ノ衛生志ニシテ編成送付セルモノナリ。

四 抗戰力ヲ主体トスル各層ノ動向

第三戰區地區ニ於ケル一般民衆ハ第一次浙甯作戰以來我方ノ濟封鎖工
 作ノ強化ニヨツテ沿海都市ヨリ輸入ルートヲ遮斷セラレ極度ノ物資
 獲得難ニ陥リ且ツ田賦、徵稅、徵兵ノ強制等ノタメ生活不安著シク
 民心ノ動搖ハ特大東亞戰後表面化タルモノノ如シ、敵側ハカ、ル
 民心ノ不安動搖ヲ極力防遏スルタメ軍官民抗日戰線ノ統一ニ全力ヲ集
 中シ南京政權ニ對スル逆宣傳ヲ強行シテ民心把握ヲ企圖セリ、
 軍政機構ノ中心ハ政治工作隊ニアリ本部ヲ第三戰區總司令部ニ設ケ
 各師部ニ軍直轄トシテ配屬部隊ノ移動ニ先行シ鄉保長ヲ集メ軍民合
 作教育ヲ施シ勞役、糧食ノ收集、道路、橋梁ノ破壊等作戰ヲ主トシ
 ズ、又三民主義青年團モ實際上第三戰區司令部ノ指令ヲ受ケ軍民合
 作ニ重要ナル役割ヲ有セリ、
 其ノ他軍政黨組織ハ次ノ如シ

(一) 戒嚴司令部

孫繼策ヲ司令トナシ六月上旬設置、治安確保、宣傳工作、清鄉蒐
集等第三戰區司令部ト密接ナル聯繫ヲトレリ

(二) 砲兵指揮部

唐子良中將ヲ指揮官トセルモ活動狀況不明ナリ

(三) 廣信縣國民兵團

滿十八歳ヨリ滿四十歳ニ至ル青壯年ヲ強制入團トシメ國民兵團ヲ
組織トリ、裝備極メテ不完全ナルモ概ネ六百名ヲ以テ自衛組織ヲ
編成シ軍竝ニ保安機關ノ援助ニ任ジアリタリ

(四) 壯丁師管區、同團管區

壯丁徵集事務機關ニシテ昨年末臨時強制徵集ヲ實施トリ

第五節 玉山縣

一、行政機關ノ現況

民國十八年共產黨紅軍司令賀國忠瑞金ニ潛入シテ以來玉山地區ニ於
テモ赤區ノ建設アリ共產主義政策ノモトニ農村ハ排取セラレ、極度
ニ疲弊シ夾ツタガ蔣政權ノ剿共動員後、國民黨政權地ヲ拂フニ至ル
爾來豐富ナル物資ヲ擽シツツソノ地盤ノ土ニ地方政治ノ方向ハ軍隊
ト民衆ノ合作ヲ當面ノ目標トシコノ工作ハ一應成功シツツアリシモ
ノト思ハル

先ツ保甲制度ハ徹底的ニ實施セラレ二百乃至三百ノ保安隊ガ地方自
治ノ確保ニ當レリ玉山縣ハ人口二二萬ヲ算シ三五保ヨリナル保甲總
鎮區長ハ夫々選舉ニヨリ、縣政府ヨリ正式ニ任命セララルガ任期不
定ナルモ概ネ三年ナリ

更ニ民國二十六年ヨリ徵兵制實施セラレ師管區司令部ニヨリ徵兵ヲ行ヒ、コソニテ補充團ヲ訓練各部隊ニ添附セリ

徵兵忌避(代役)ノ風習ハ營縣ニ於テモ屢次ニ亙リ奢淫ニヨリ不定ナルモノ一千元乃至二千元ヲ據出シ徵兵ヲ免除シラルコトアリ

出征軍人家族ニ對シテハ壯丁稅免除ノ外一年ニ三擔ノ米ヲ支給シ優待ノ方法ヲ講ジツツアリタリ、保甲制度ニヨル軍民合作ハカクシテ強行ニ推進セラレタルモノソノ反面租稅及ビ租稅以外ニ人民ニ賦課レハ負擔ハ甚ダ苛酷ナルモノアリタリ

徵稅方法ハ法幣ノ慘落、物價騰貴ノタメ物納制ヲ實施シラルモノ一部國幣ヲ折合シ、換算額ハ一定期間ノ平均價格ヲ標準トシテ定メタリ

正規ニ區公署ニ納付スル稅金以外ニ一級民衆ノ負擔ヲ區鄉鎮ニ例ワトレバ本ノ如シ

(4)壯丁捐費 十八歳以上四十五歳以下ノモノニシテ入隊トザルモノ

(四)鎮公所丁準貼費

鎮公所ノ費用ヲ賒フタメ毎戸一ヶ月十元

(五)鎮公所清道夫費

道路補修費トシテ毎度四元乃至五元

(六)其他當時又ハ臨時民工ノ賦役アリ

皇軍ノ今次作戰開始後、縣長 王贊賢以下職員ハ五月末軍ヨリノ

情報ニ基キ避難準備ヲ行ヒ一般住民ノ撤退ヲ慫慂セラルモノ其後縣政

府ハ樟村街ニ逃避シ同地ニテ縣政ヲ執レルモノノ如シ

附記 民國二十九年度ニ於ケル本縣歲出歲入額ヲ各項目別ニ見レ

バ次ノ如シ

歲出

行政費

九五〇〇五

保安費

四一七八四

財務費	四三一三
教育費	六五七六五
建設費	三五三二
救郵費	六四九六
衛生費	三五九〇
其他費	四二二五
豫備費	二〇〇〇
合計	二二六七一〇
歳入	
土地稅收入	六九三九〇
營業稅收入	四三三二七
土地改良物稅收入	五五〇〇

公産收入	二三二九二
補助收入	四八三九七
其他收入	三六八〇四
合計	二二六七一〇

二、社會施設特ニ教育施設ノ概要

抗戰地區内ニ於ケル社會施設ハ戰禍ニヨリ極ネ破壊セラレタリ、主
ナルモノヲ舉グレバ次ノ如シ

- (一) 教育施設
- (1) 初級中學
- (2) 浙贛鐵路中學
- (3) 日曜中學（私立）

- (4) 臨時巡迴式中學 一
- (5) 小學校ハ各郷ニ一校宛有ス
中等學校ハ各校共生徒數約三百名程度ニシテ各々附屬圖書館
ヲ有セリ

(二) 其他ノ社會施設

見ルベキモノ少キモ主要ナルモノヲ舉グレバ次ノ如シ

- (1) 江西省立玉山縣立民衆教育館
一般民衆ノ社會教育ニ當リ、體育場、娛樂場ヲ有シタルモノ
ノ如キモ詳細ハ不明ナリ
- (2) 浙贛鐵路管理局經營ノ娛樂場
- (3) 映畫館、戲院
- (4) 防空壕（公共用）二十數ヶ所ニ小規模ナルモノアリテ防空具
想ノ普及、防空訓練モ相當徹底シ居リタルモノノ如シ

三、衛生施設、防疫狀況

一、傳染病流行狀況

- (1) 玉山縣ニ於テハ「マラリア」ノ蔓延最モ多ク、三日熱カ大部分
ナルモ、熱帶熱モ相當蔓延セルモノノ如シ。軍醫部ノ蚊ノ調査
ニ依レバ二一九匹ノ蚊ノ内三四匹（一五、五%）ハ「マラリア」
ヲ媒介スル處ノ「アノフェレス」ナリト謂フ
- (2) 赤痢、腸「チフス」、「コレラ」、痘瘡ハ「マラリア」ニ次デ多
ク毎年流行スルモノノ如シ
- (3) 流行性腦脊髄炎ハ三年前五名發生シ全員死亡セリト

二、衛生施設並ニ防疫狀況

戰禍ニヨリ衛生施設ハ殆ド破壊セラレ、住民ハ逃亡セル爲メ捕
ノ言、文獻、軍醫部ノ調査等ヲ綜合シ概況ヲ知り得タル

ノミナリ。

(1) 縣衛生院ハ縣ノ衛生施設ノ中心ヲナスモノニシテ衛生行政防疫

ヲ司ル以外ニ附屬院ヲ有シ、衛生院長ハ附屬院長ヲ兼ね、職員

一名他約十名ヲ以テ組織セラレ

縣分區ニハ衛生分院、郷鎮ニハ衛生所、保ニハ衛生員ヲ置キテ

防疫、醫療ニ當リ、衛生教育ヲモナス

(2) 浙贛鐵路醫院ハ城外ニアリテ、病床約五百〇、傳染病陶磁消毒、

手術室、入浴場アリテ設備ハ相當完備セルモノノ如シ。

(3) 衛生材料倉庫ヲ城外張村ノ廟中ニ發見セリト謂フ。

(4) 衛生施設ノ主ナルモノハ以上ノミナリモノ、コノ他ニ「フランクス」

人經營ノ教會ニ附屬セル簡單ナル治療室、個人開業醫（洋医）

數人アリ。ソノ他中醫ハ多數居リタルモノノ如シ。

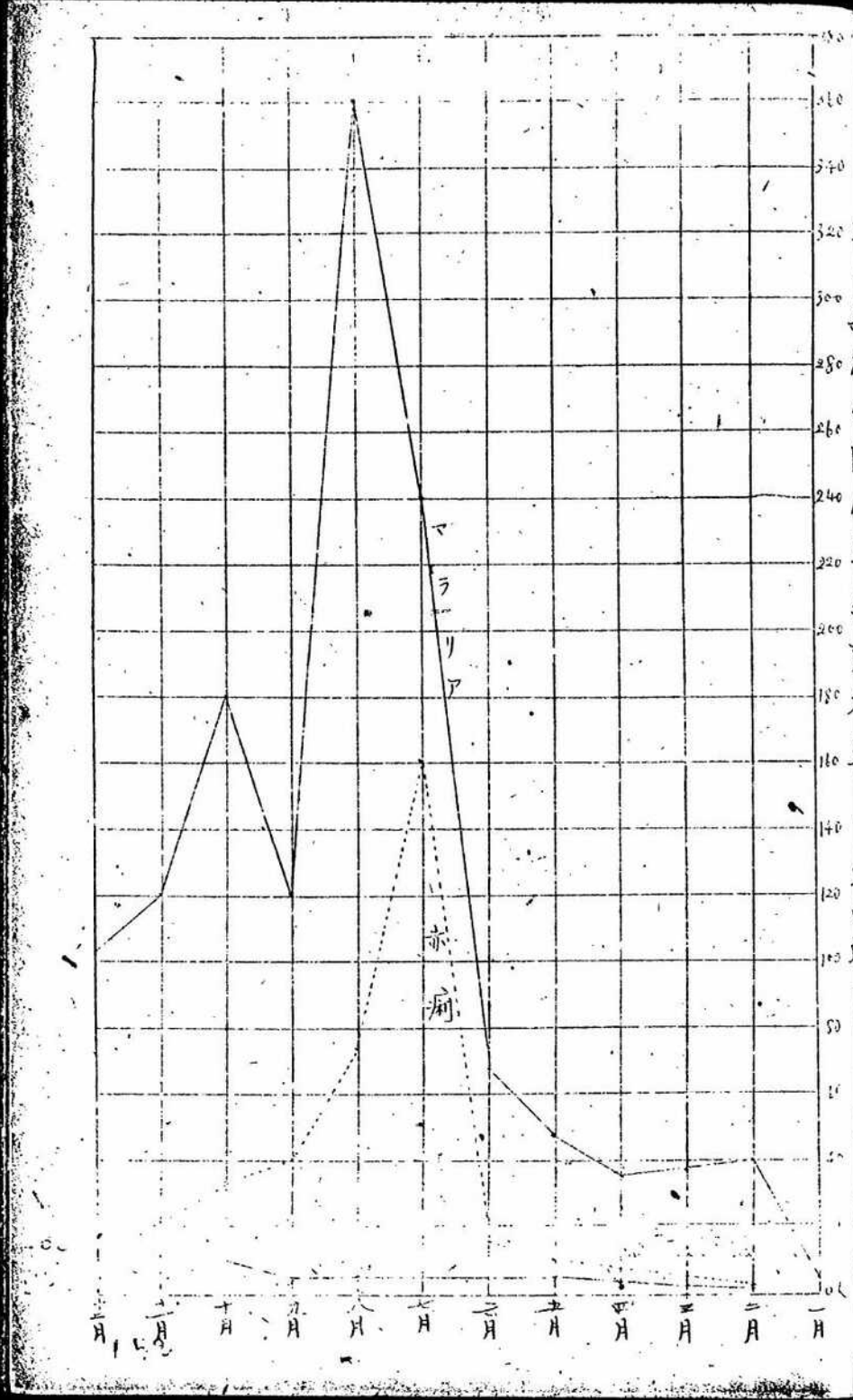
以上衛生施設ノ概略ニシテ、防疫ハ軍醫官の指導を以て

テ之ニ當リ、檢疫、豫防接種、種痘等モ可成多ク實行セラレ、省

立民衆教育館、三民主義青年團モ既述ノ衛生機關ト協力シテ一

民衆ニ對スル衛生思想ノ普及ニモ相當力ヲ入レテ居タモノノ如シ。

めくれず



四、抗戦力ヲ主体トスル各層ノ動向

抗戦建國ノスロীগアンノ下ニ軍民合作工作ハ先ヅ廣汎ナル民衆動員ヲ基礎トシテ遂ゲラレ保甲制度ノ確立ニヨル地方政治ノ運用ハ汚濁化セリ。

軍政機構ノ中心トシテハ政治工作隊アリ、本部ヲ第三戰區司令部ニ置キ各師部ニ軍直轄トシテ配屬セラレアリ、主トシテ物資調發、民心把握、輸送路ノ破壊等ニ任ゼリ

更ニ三民主義青年團ハ主義ノ普及、及ビ抗日戦ニ軍ノ一翼トナリ宣傳戰ヲ擔任、新聞、ラジヲ其他宣傳機關ヲ通ジテ工作ヲ實施シ各埠情報ノ蒐集ニモ當レリ

一、行政機關ノ現況

本縣ノ行政ハ少壯氣銳ノ縣長許學彬ノ下ニ極マテ活潑ニ運用セラレ、第三戰區ニ於ケル政治的、軍事的、經濟的據點トシテノ重要ナル地位ヲ占ムルニ至レリ、縣政ノ重點ハ縣各級組織ノ實施徹底ニアリ、ソノ主要ナル工作ヲ舉グレバ次ノ如シ

- (1) 三十一年一月城區ヲ除ク城外各區（五區）ニ夫々新シク區署ヲ設置シ縣政ノ浸透ヲ徹底化セリ
- (2) 三十一年一月以來縣下各保ニ悉ク保公所ヲ設立セシム
- (3) 三十一年以來縣政府ハ積極的ニ保民大會ノ開催ヲ獎勵シ相當ノ成績ヲ擧ゲアリタルモノノ如シ

(4) 三十一年三月末縣參議會成立、第一回會議ヲ開催セルガ議員選出要領次ノ如シ

議員總數五十三名

鄉鎮代表 各一名（鄉鎮民代表ヨリ選出）計 四十名

職業團體代表各一名（各會員ヨリ選出）計 十三名

(5) 各鄉鎮ヲシテ毎月一回戶口調査ヲ實施セシムルト共ニ住民證ノ普及ヲ圖レリ

本縣三十年度並三十一年度財政狀況ヲ比較セバ別表ノ如シ

科目	本年度概算	前年度概算	増減	繰越金
政務件使支出	四九、九〇〇	一九、八〇〇	三〇、一〇〇	
行政支出	三六三、四六二	二〇五、〇〇〇	一五八、四六二	
教育及文化支出	三三三、〇〇〇	一六九、〇〇〇	一五三、〇〇〇	
経済及建設支出	一三九、〇〇〇	四六、〇〇〇	八三、〇〇〇	
衛生及治療支出	六四、七八四	一一、〇〇〇	四九、七八四	
保育及救済支出	九一、三六〇	一一、〇〇〇	七九、三六〇	
保安支出	四三、八四〇	二九、〇〇〇	一四、八四〇	
財務支出	五、〇四〇	七、〇〇〇	二、九六〇	
債務支出	三、〇〇〇		三、〇〇〇	
公務人員退任支出	一八〇	七、八〇〇	七、六二〇	
信託管理支出	一一、五九五		一一、五九五	
其他支出	二、一九〇七	二〇、〇〇〇	一七、八〇三	
市鎮事業費	二七六、一六四		二七六、一六四	
特殊事業費	八二八、六二六		八二八、六二六	
繰入金	一五八、四五二	一三〇、二七〇	二八、一八二	
合計	二、八五九、三一〇	一、〇八九、二五〇	一、八六三、六六〇	九四、六〇〇

めくれず

全年度三十一年度歳入総概算

科目	本年度概算	昨年度概算	増	減
税課収入	二、四三一、九〇〇	六四九、六〇〇	一、七八三、三〇〇	
懲罰及賠償収入	一五、三〇〇	一五、五〇〇		二〇〇
規費収入	三三、〇〇〇	二五、六〇〇	七、四〇〇	
財産及権利収入	四四、三三五		四四、三三五	
公有事業収入	一一一	一一、〇〇〇		一一、八八〇
補助収入	二八、一九一	二一、二四一		六、九五〇
其他収入	二八、八〇〇	九四、四〇〇		六五、六〇〇
地政収入	一、五〇〇	一、四〇〇	一〇〇	
鎮事業収入	二七六、一六四		二七六、一六四	
雑項下収入		二〇、一〇九		二〇、一〇九
物品売却収入		四、〇〇〇		四、〇〇〇
利息及利潤収入		二、三一九		二、三一九
合計	二、八五九、三一〇	一、〇八九、二五〇	二、一七〇、〇六〇	二、九一、一五八

二、教育施設

本縣ニ於ケル小學教育ハ縣政府當局ノ奨励ニモ拘ハラズ所期ノ成績ヲ
 擧ゲ得ザリシモノノ如ク、児童數ノ増加ニヨリ廢校ヲ改造タル校舍、
 其他狹隘ナル設備ヲ以テ校舍ニ充當シ極力收容力ノ増加ヲ圖ルモ最近ノ統
 計ニヨレバ學童數ハ適齡兒童數ノ僅力ニ六〇%ニ過ギザル状態ナリ
 小學校並中學校施設次ノ如シ

- (1) 高級小學
- 鄉鎮中心學校 二三
 - 私立完全小學 一七
 - 計 四〇 (平均一鄉鎮ニ一校)

- (2) 初級中學
- 國民學校 一一〇

私立初級小學校一一九

計

二一九（平均九保ニ對シ五校）

(3) 中等學校

中等學校ハ省立金華中學、初級農學校、私立鹽務中學、大女子
中學、私立作新中學、縣立簡易師範ノ七校ヲ數ヘタルモ我軍ノ今
次作戰以來都市ヨリ縣下農村或ハ武義、湯溪兩縣ノ農村方面ヘ大半
移轉シ避難ヤルモノノ如シ、

三、衛生施設防疫狀況

一、傳染病流行狀況

(1) 「マラリア」最モ多ク蔓延シ、大部分ハ二日熱ナルモ一部ハ熱
熱ニシテ四日熱ハ無キモノノ如シ。

(2) 赤痢、腸「チフス」痘瘡ハ毎年流行ハルモノノ如ク「コレラ」
殆ド毎年流行シ民國二十九年ニハ約七百ノ患者發生シ内約二百名
死亡ハリト謂フ。

(3) 寄生虫病トシテハ蛔虫最モ多ク「カラ・アザール」モ稀ニ見ラ
ル如シ

二、衛生施設並ニ防疫狀況

(1) 金華縣衛生院ハ衛生行政及ビ防疫ノ中心ニシテ、之ニ附屬醫院
有シ、衛生院長ハ附屬醫院長ヲ兼務ス。病床數十、隔離病棟、藥
的材料検査室、手術室等ヲ有ス

(2) 福音醫院ハ米國バプテスト教會ノ設立ニヨルモノニシテ四十年ノ

歴史ヲ有シ醫院ハ名護士二名護生三〇名居リ病床百以上アリテ常時百名内外ノ入院患者ヲ收容スリ。戰時ニアリテハ戰傷病兵ヲ多數收容シ居タルガ如シ

(3) 公立醫院ニ他ニアリタルモノノ内容ハ不明ナリ。ソノ他洋醫數名中醫多數個人開業ヲシ居タルガ如シ。

以上衛生施設ノ概略ニシテ軍醫部ト縣衛生院ガ中心トナリ、豫防接種患者ノ隔離、消毒等ニ從事シ、之等防疫工作ハ相當徹底的ニ行ハレタルモノト思惟スラハル。以上ノ機關ニ協力シテ金華民衆教育館ガ一民衆ノ衛生教育ニ努力シ居タル事認マラハル。

四、抗戦力ヲ主体トトル各層ノ動向

國民黨縣黨部及ビニ民主義青年團ハ對民衆宣傳ニヨル軍民合作ニ對シテハ役割ヲ果シ來レリ

ニ民主義青年團ハ金華ニ金華分團部アリ、同部ハ更ニ金華、湯溪、武義等ニ同團青年服務團ヲ設置シ之ヲ指揮指導シアリタリ、然シテ同團ハ二十五歳以下ノ青年ヲ以テ組織シソノ民衆指導ハ國民黨黨部ノ工作ニ比シテ企圖心ニ富ミ、民心ヲ把握ニ効果的ナリシモノノ如シ。抗戦体系ノ指導地位トシテノ軍政黨ノ工作ハ極マテ強力ニ推進セラレ國民精神總動員ヲ目標トシテ一般民衆ノ新生活運動ノ促進ヲ提唱スルト共ニ軍民合作ノ具體的辦法ヲ編制スリ

(1) 嚴格ナル戸口調査

(2) 郷鎮ニ監査所ヲ設ケ民衆ノ肅奸綱ヲ組織シ且ツ民衆訓練ヲ強化ス

(3) 軍民合作站ヲ増設シ軍隊ニヨル物資、勞力ノ徵用ニ當リテノ軍民

制ノ磨擦ヲ防止ス

(4) 金華城内ノ私娼ヲ四月中ニ城外ニ放逐ス、

(5) 料理店ノ一テーブルノ價格ヲ最高一〇〇元ニ制限ス

(6) 流動商人中身元不確實ナルモノハ徹底的ニ驅逐ス、又プローカ!
ハ二〇〇名ニ制限シ縣政府ノ證明書ヲ支給ス

第七節 蘭 谿 縣

行政機關ノ現況

民國三十年ニ於ケル本縣戶數竝人口總數ハ次ニ示ス如ク民國二十七年統計ニ比較シ人口總數ニ於テハ、〇〇〇名ノ増加ヲ示セリ

區 分	民國二十七年	民國三十年	增
戶 數	五九〇一三	六三、四一五	四、四〇二
人口總數	三〇〇、一八八	三〇八、一三六	七、九四八
男	一六九、六〇九	一七二、一〇一	二、四九二

女

一三〇、五七九

一三七、〇三五

六、四五六一

縣長徐志道ハ三十五歳ノ壯年ニシテ民國二十七年九月現職ニ就任
縣政ノ運用ハ氣鋭ノ縣長ヲ中心トシ極メテ活潑ニ遂行セラレ地ニ
駐屯軍六十三師トノ合作ヲ圖リ軍事政治ノ一体化ニ努力シタルモ
ノノ如シ

次ニ縣政ニ關スル主要ナル事項ヲ列舉セバ

精神建設ノ方向

- 1 新生活運動ノ促進ニヨル戰時生活ノ整理ヲナス
- 2 反動的言動ヲ肅清シ抗戰陣容ヲ整フ
- 3 公務人員ヲ督導シ入黨入團トシ、信仰ヲ堅固ナラシム、國民
黨及ビニ民主黨青年團入黨者ハ民國二十年ニ於テ縣政府職員
二八人、自治人員二四五人、教育人員一四二人、所屬機關職員

二二人ヲ數ヘタリ

4 國民月會ヲ開催シ、國民公約ヲ勵行ス

(一) 地方自治ノ實績

民國二十七年三月九日郷鎮ヲ統合シ、三五郷鎮ニ改メ縣經費ノ縮少ヲ計レリ

更ニ全縣ヲ四區ニ區畫シ、水亭、馬淵、甘溪ノ三區ニ區署ヲ設置セル外、直轄區ニハ郷鎮督察區ヲ設置シ以テ縣郷鎮間ノ聯繫ヲ緊密ニシ、又ニヨリ語種ノ嚴時施政ニ著シキ效果ヲモノラセリ

(二) 警察組織ノ充實

警察局ハ縣政府ニ屬シ縣長ノ指揮下ニアリ、行政、司法兩科及ビ督察處、政訓處、並ニ警察中隊、消防隊、衛生隊、拘留所、更ニ行政區域ニヨリ馬淵、甘溪、水亭三區ノ區署、並ニ派出所十五ヶ所ヲ設置セリ

警察員總數二五三名中官長三八名、長警二一五名ヲ以テ組織シ各隊ニハ隊長一名、派出所ニハ巡官一名ヲ配屬セリ

民國三十年度經費ハ一〇一、九二五元ニ上レリ

四 三十一年度實施豫定財政々策要項

1 郷鎮經費ノ收支統一ノ實行

(1) 總支出豫算編成ハ郷鎮民代表會ニ於テ討論議決シ縣政府ニ提出

(2) 各保長ニ於テ徵收トル郷鎮臨時捐款ハ指定トル代理公署ニ納入トシ、他ニ使用シ得ズ

(3) 郷鎮經費ノ收發ハ郷鎮公所ニ於テ處理ス例ヘバ縣支給ノ各項補助費、入營壯丁ノ安家費等ハ全テ各郷鎮公所ヨリ發給シ各保長單獨ノ發給ヲ許可セズ

- (一) 各郷ノ公款公産調査ヲ編纂ス
- (二) 地方攤募捐款ノ標準額ヲ確定ス
- 2 郷鎮ノ増産ヲ奨励
 - 増産ニ關スル各種法規ヲ設ケ積極的ニ地方郷鎮ノ經濟建設ヲ促進ス
- 3 捐税ノ整理
 - 各種捐税ノ整理統合ヲナス
- 4 戦時公債ノ募集
 - 本縣制當額九五萬元ヲ募集スル爲メ縣勸募分隊ヲ組織、講習並ニ各同業分會等ヲ單位トシテ支隊長ヲ任命ス
- 5 節約建國儲蓄勸行ノ強化
 - 節約貯蓄實踐會ヲ組織ス

南 谿 縣 三 十 一 年 度 地 方 歲 入 總 概 算 表

名 稱	本年 度 概 算	昨 年 度 概 算	增 比	減 比
稅 課 收 入	二五五、六三〇	九五六、八五〇	一五九、四四〇	
征 罰 及 贖 債 收 入	一七六、〇〇	一、〇〇〇	一七六、〇〇	
規 費 收 入	四〇、八四〇	三、四〇〇	三、八四〇	
賦 產 及 利 收 入	八六、六六〇	五五、二五四	三、四〇六	
補 助 收 入	二、三七六	五八、八五五		三、四七九
其 他 收 入	五、〇〇〇	七、八七四		一、三、三六〇
鄉 鎮 業 務 收 入	一〇九、七五五		一〇九、七五五	
合 計	三八六、九三二	一九九、六九九	一八七、五四七	五、三三九

蘭糸線三十一年度歳出總概算

名 稱	本年度概算	昨年度概算	比較
改權行使支出	五七、三四一	一七、六五〇	三九、八九〇
行政支出	四三、三一六	三五、九〇三	三、三九〇
教育文化支出	三三、〇三四	二〇、七六六	一五、二七八
経済建設支出	一八、九九八	三三、〇三六	一四、〇三八
衛生医療支出	七、〇〇〇	五、三三三	一、六六七
保身救済支出	一五、五九〇	一〇、六一八	四、九七二
貸付支出	五一〇、九五九	三八、五八八	一、二七〇
其他支出	四七、三三二	二〇、四九三	二六、八三九
特種事業支出	五八、四八一	二、三三三	三、一四八
雑費	七三五、五一五		七三五、五一五
予備金	一八〇、〇〇〇	一七、五三三	一、六六六
合 計	三、八六〇、五六一	一、一九三、八三三	二、六六六、七二八

二、社會施設特ニ教育施設ノ概況

縣政府ハ精神建設ノ基礎ヲ新生活運動ニ據キ個人生活ノ改正、社會風紀ノ是正ヲ圖レリ

新運工作ハ一般民衆ニ對スルモノ及ビ各機關、學校ニ對スルモノトニ分類セラレ

(一) 一般民衆ニ對スルモノ

- 一般民衆ヲ對象トシテ衛生事業ヲ實施
- 毎月清潔検査ヲ舉行スルト共ニ簡單素樸ナル生活ヲ提唱シ、隨時検査員ヲ派遣民衆ヲシテ新生活ニ適合レザル行動ヲ糾正トシム
- (二) 各機關、學校ニ對スルモノ
 - 公務員及學生ヲ對象トシ良習ヲ養成トシムルヲ時同勵行、服装整齊、公物愛用、歌詠隊、球隊ノ組織、讀書會ノ實施等ニヨル

日常生活ノ改正ヲ圖リ公務員ノ多數之ニ參加セリ

本縣ニ於ケル教育狀況ハ全般ニ亘リ熱心且ツ徹底的ニ普及シアリ
 テ施設ハ中等學校三、中學校一、鄉鎮毎ニ一校ヲ設置スルニ三五、國民
 民學校二〇四、計二四二校ノ多キニ達シ約二萬六千余ノ兒童ヲ
 育スル一方肅正文盲ヲ目指シテ成人班、婦女班ヲ設ケルト共ニ社
 會教育機關トシテ民衆教育館及運動場圖書館等ヲ設置、社會教育
 ニモ凡ユル手段ヲ講ジツツアリタルモノノ如シ、而シテ之等ハ極
 々々々々々勿論抗戰建國、抗日思想ノ涵養ヲ根本トセリ
 縣當局ハ教員ノ待遇改善ニ努力セルガ各校教員月額俸給ハ次ノ如
 シ

〔〕鄉鎮中心學校

校長 最高五五元 最低四五元 平均五〇元
 教員 四五元 三〇元 三二元

〔〕國民學校

校長 最高二五元 最低三〇元 平均三二元
 教員 二五元 三〇元 三二元

以上ノ外米三五市斤ヲ毎月支給セリ

蘭谿縣中心及國民學校數並ニ入學兒童及民衆數統計表

校名	校數	小 學 部		計	民 衆 部		合 計
		高 級	初 級		成 人	婦 女	
中 心	三五	三八六七	五五九〇	九四五七	一九〇八	一五一一	三四二〇
國 民	二〇四		一六八一五	一六八一五	三七五〇	一六七〇	五四二〇
總 計	二三九	三八六七	二二四〇五	二六二七二	五六五八	三二八五	八八四三

註 成人及婦女班ハ十三歲以上三十五歲以下ノ失學者ヲ言フ

三 衛生施設、防疫狀況

(一) 傳染病流行狀況

- 1 「マラリア」最モ多ク蔓延シ三日熱最モ多。熱帶熱之ニ次ギ兩者ノ混合感染等モ相當多數ニ見ラレシ如シ。
- 2 天然痘モ相當猛威ヲ振ヒシ如ク、赤痢、腸チフス、ハ殆ド當時流行ヲ見ツツアル狀況ナリト云フ。「コレラ」ハ近年發生稀ニシテ僅カニ旅行者ノ發病少數アリタル如シ。
- 3 寄生虫病ニツキテハ前記「マラリア」以外依ルベキ文獻ナク之ヲ認ルヲ得ザリキ。

(二) 衛生施設並ニ防疫狀況

蘭溪衛生院ヲ中心ニ永昌、馬澗、甘溪等ニ衛生所ヲ設置シ衛生行政並ニ防疫作業ヲ實施シツツアリタリ。衛生院ハ附屬醫院ヲ有シ、傳染病ノ流行時ニハ隔離醫院及ビ檢疫所ヲ添設ス。

衛生施設トシテハ上記ノ外ニ環境衛生ヲ改善スベク規則ヲ設ケ左記各

項ヲ積極的ニ實行シツ、アリタリ。

1 小販ノ取締リ 體所ニ食物ヲ販賣シムルハ市容ヲ損ズルト共ニ

不潔トナリ引イテハ傳染病ノ誘因トナルニヨリ、場所ヲ指定シテ

場ヲ設ケシノコノ清潔状態ノ監督ヲ嚴ニスル

2 塵埃處理 道路ノ清掃地區ヲ分割シ之ヲ勵行セシメ、塵埃ハ衛生院

派遣ノ係員ニ指定セラレタル城外三個所ノ地點ニ運搬ス。清掃、運

搬等ハ縣政府ノ命ヲ受ケ各保長之ヲ處理ス

3 溝渠ノ埃滌 暗渠、クリーク等埃滌シ、水流ヲヨクセシムル

4 廁所ノ改良 共同便所ヲ建築シ、私設便所ノ不潔ヲ取締ル

ソノ他産婦衛生登記、嬰兒保健競争等ヲ計劃シ居リシ文獻アリ。

防疫狀況トシテハ主トシテ種痘ニ力ヲ注ギシ如ク一月一三月ニ開始シ

四月ニ終了。八月ニ再開シ十月乃至十二月ニ終了ス。年々種痘施行人

員一萬人程度ナリシ如シ。「コレラ」及「チフス」豫防注射ハ保甲

長ニ責ヲ負ハシメ徹底的ニ施行セシムル方法ヲトリタル様子ナルモ

生思想低キタノ、注射ヲ忌避スルモノ多カリシ如シ。民國二十九年

ニ於ケル豫防注射ハ「コレラ」及ビ「コレラ」チフス混合液「合計

人員一萬二千五百ニシテ、三十年ニハ豫防疫ノ入手困難ニシテ、之

行ハザリシ如キ記録アリ。

コノ豫防注射ハ毎年四月開始シ十一月十二月ニ終了シ、注射モ集團注射

在院注射、街頭注射、巡廻注射ニ分チ、集團注射班ハ各機關、團體、

部隊、學校等ニ出張注射シ、巡廻注射班ハ貧民區及患者發生處ヲ巡廻

施行ス。

衛生院、衛生所以外ニハ見ルベキ衛生施設トモノノ如シ。

四 抗戰力ヲ主体トセル各層ノ動向

當縣ニ於ケル軍民合作工作ハ縣政府ノ施政ヲ中心トシ地方鄉鎮ノ確保ニヨ

リ可成リノ成績ヲ擧ゲタルモノ、如シ。公務人員ハ殆ンド凡テ準備的

ニ入黨入團セシメ直接民衆ニ對スル抗戰理論ノ指導ニ當ラシノタリ。

更ニ新生活運動ノ縣政府ニヨル率先的實行體制ハ地方鄉鎮ノ精神健

ヲ促進セシメ、中央軍政機關トノ連絡ヲ漸次圓滑化シ軍民合作ニ效果
ヲモタラサルモノト思ハル。

一 傳染病流行狀況

民國二十九年年度ノ傳染病狀況ハ不詳、衛生院ニ於テ、
取扱タル患者ノ病別統計ニヨル法定傳染病トシテ
チフス一名ヲ記載セラル、尚今回「フウリヤ」「マラリア」
調査ノ目的ニテ辻着民ノ檢血ヲ施行セルガ其ノ檢査
成績ハ改メテ後日報告セントス。

二 衛生施設並ニ防疫狀況

衛生施設トシテ私立醫院三ヶ所、公立診所一ヶ所ノ外
衛生院ノ設置アリ。本院ハ民國二十九年三月九日
設立セラレ黃佑吉氏 主管長官ニ任命セラル。同院ハ
職員ハ院長（或ハ主任）一名、助産士一名、護士一名
助産士一名、調劑士一名、衛生助理員四名ヨリ成ル。

めくれず

當地診療機關が有る病床数ハ七、毎月ノ診察患者平均数ハ六四九〇名ナリ。尚當地ノ藥商ハ西藥商鋪四軒、中藥商鋪五三軒ヲ算ス。民國二十九年年度衛生經費ハ九四九八元ニシテソノ内譯ハ衛生院經常費七、二〇〇元、衛生院事務費一、五〇〇元、防疫費一、五〇〇元、清道費六四八元ナリ。因ニ豫方歳出額ハ四、二七、七〇二元ナリ。

民國二十九年年度ノ防疫工作トシテ「コレラ」豫防注射(六月—九月)四一九一名、種痘一日、七、七六六名(内譯種痘、一、七九三名、復種、一、八八三名)ヲ實施シ、衛生院ノ業務、診療、保健、環境衛生、衛生教育ノ諸方面ニ亘リ、次ニ掲グニ統計表。

何レモ民國二十九年年度ノ

新患者数	三〇八九
舊患者数	八一七四

病別統計

病別	患者数	病別	患者数	病別	患者数
急性胃腸炎	八一	花柳病	七二	診斷不明	二
其他呼吸器病	二四	其他皮膚病	六八七	其他	八九九
其他結核病	九	疥瘡	二六三	早産或流産	
肺結核	六一	其他眼病	一八五	產褥熱	
其他發疹熱病	三	沙眼	三三六	中毒及自殺	一一
麻疹	一	沙眼器病	二八	其他外傷	六九〇
瘧疾	三四一	心臟血管病	六	受傷(軍)	六
回歸熱		其他消化器病	一八七	受傷(民)	

めくれず

保健工作統計

分塊取扱人数	二六	産前検査人数	四七	産後訪視人数	七六	健康検査人数	三三三	欠點矯正人数	一一一
--------	----	--------	----	--------	----	--------	-----	--------	-----

環境衛生工作統計

環境衛生調査数	五四	清潔指導回数	一九四	商店衛生調査回数	三六	水井調査回数	二	厕所調査回数	三三	病家消毒回数	一
---------	----	--------	-----	----------	----	--------	---	--------	----	--------	---

衛生教育工作統計

衛生講演回数	二七	家庭訪問回数	七一	宣傳品發行数	一一五〇	標語貼出回数	五〇
聽講人数	一八四一						

一 傳染病流行状況

民國二十九年年度、傳染病狀況ハ不詳ナルモ「コレラ」ノ發生ヲ見クルモ、如シ。民國三十一年ハ一月ヨリ「コレラ」ノ發生シタリ。義烏縣防疫所工作報告ヨリ其流行狀況ヲ觀ルニ次、如ク。

	民國三十一年	一月	二月	三月	四月	計
コレラ患者数		一〇	四	一一	二	二八
コレラ罹患者数		三	三	五	二	一三
備考		上旬ヲ欠ク	上下旬ヲ欠ク		一旬ヲ欠ク	

尚「フシラリア」「マラリア」調査ノ目的ニテ土着民ノ檢血ヲ實施シタルモ其ノ検査成績ハ改善後日報告セントス。

衛生施設並ニ防疫狀況

めくれず

衛生施設トシテ公立診所一ヶ所、私立診所一ヶ所、私立産院一ヶ所ヲ有ス。當地ニ浙江省下、他縣ニ存スルガ如キ衛生院、設置ナク、省政府衛生處ニ組織セル孝豊巡迴醫療防疫隊カ蕭山事變後義烏ニ移駐シ、當地方ノ醫療防疫工作ニ從事セリ。當地診療機關、取扱ヘシ患者數ハ毎月平均一六八名ナリ。當地、藥商ハ西藥舖ニ軒、中藥舖一三五軒ニ及ボ、民國二十九年年度衛生經費ハ七三〇元、ソノ内譯ハ防疫費一三〇元、清道費六〇元ナリ。因ニ縣地方歳出額ハ二五九、三一六元ナリ。

防疫工作トシテハ民國二十九年年度六月ヨリ九月ニ亘リ住民ノコレラ豫防注射ヲ實施セルガノ數ニ一四三名メナリ(次表参照)。

備考	有菌鼠數	検鼠數	注射人數	民國三十一年
上半旬欠ク	九	一〇	五	一月
下半旬欠ク	三	三	四	二月
	一四	三一	一九二	三月
下旬欠ク	二	二	三六七〇	四月
	一八(一九五七)	四七	三八七一	計

めくれず

第十節 諸暨縣(衛生関係)

一 傳染病流行状況

民國二十九年年度ハ浙江省下ノコレラ流行甚シク諸暨縣ニテノ初發ハ七月十四日兩宜郷ニ於テナリ。七月中旬ヨリ九月下旬ヲノ當地ニ於ケルコレラノ状況ハ次表ニ示スカ如シ。

	七月	八月	九月	計
患者数	六四	三六	一三	一一三
罹患者数	五四	一九	四	七七

其他衛生院ニテ同年度ニ取扱ヒタル法定傳染病患者ハ「フラス」(及「バラチラス」)五名、赤痢一〇二名ナリ。尚「フラス」ヲ「マリア」調査ノ目的ヲ以テ土着民ノ換血ヲ實施セルガ

衛生施設トシテ公立醫院一所、私立醫院ニヶ所、私立診所ニヶ所ヲ有ス。縣衛生院ハソノ中、有力機關ニシテ民國二十九年二月一日設立セラレ周思明氏其ノ主管長官ニ任命セラレ。同院ハ院長(或ハ主任)一名、醫師二名、助醫一名、公共衛生護士一名、護士一名、助産士一名、調劑士一名、事務員一名ヨリ成ル。當地ノ診療機關ガ有スル病床数ハ一三、毎月ノ診療患者数ノ平均ハ二二五〇名ナリ。

民國二十九年年度衛生經費ハ一〇、三六二元ニシテソノ内譯ハ衛生經常費八、六四〇元、防疫費四、七四元、清道費一、〇〇八元、ソノ他二、四〇元ナリ。因ニ縣地方歳出額ハ四、〇〇六、九元ナリ。

民國二十九年年度防疫狀況ハ主トシテ對コレラ工作
 中コレラワクチン或ハコレラチフス混合ワクチンノ注射
 實施防疫委員會ハ衛生院ト協力シテ努力セリ
 ソノ外種痘ヲモ實施セリ。七月ヨリ九月ニ至ル豫防注射
 及種痘ヲ受ケタル人数ハ次表ニ示スガ如シ。

注射人数	コレラワクチン 一、四二六	コレラチフス混合ワクチン 一、一三五	種痘人数	初種 三三〇	復種 一、八三三
------	------------------	-----------------------	------	-----------	-------------

ソノ他衛生院ノ業務ハ診療、保健、衛生教育ナド
 各方面ニ亘リ、次ニ掲グル統計表ハ何レモ民國二十九年
 調一ノモノナリ。

外来患者統計

新患者数	二九九四
舊患者数	四七七六

病別統計

病別	患者数	病別	患者数
回歸熱	二二七	其他消化器病	一二六
瘧疾	二二七	心臟血管病	一六
麻疹	二二七	受傷(軍)	五
其他發疹熱病	一三	受傷(民)	三九
肺結核	二六	沙尿器病	六
其他結核病	八	其他外傷	三八一
其他呼吸器病	八七	沙眼	一七三
急性胃腸炎	九一	其他眼病	一〇五
		疥瘡	一八〇
		其他皮膚病	三六八
		花柳病	一三八
		其他	八八一
		疹	一
		早産或流産	一
		其他	一
		胎前不明	一六五
		胎後不明	一六五
		健康檢查人数	三〇七

保健工作統計

今晚取扱人数	二〇
産前検査人数	二六
産後訪視人数	三〇七
健康検査人数	三〇七

めくれず

衛生教育工作ハ特ニ注目スベキモノナク僅ニ衛生講演會
ヲ一回開催セルノミ。ソノ際ノ聴衆ハ三一七名ヲ算セリト。
194

